

# **Oracle® Solaris 10 1/13** インストールガイド: 基本インストール

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

#### U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

# 目次

---

はじめに .....	5
<b>1 CD または DVD メディアによる Oracle Solaris のインストールの計画 (タスク) .....</b>	<b>9</b>
システム要件と推奨事項 .....	9
Oracle Solaris インストールプログラムの GUI またはテキストインストーラの要件 .....	11
ディスク容量に関する一般的な計画と推奨事項 .....	12
ソフトウェアグループごとの推奨ディスク容量 .....	14
インストール用のチェックリスト .....	16
インストールに関する詳細情報の参照先 .....	28
<b>2 Oracle Solaris インストールプログラムによる UFS ファイルシステム用のインストール (タスク) .....</b>	<b>31</b>
インストールまたはアップグレードの事前準備 .....	32
▼ インストールまたはアップグレードを準備する方法 .....	32
SPARC: Oracle Solaris インストールプログラムによる UFS ファイルシステム用のインストールまたはアップグレードの実行 .....	34
▼ SPARC: Oracle Solaris インストールプログラムを使用してインストールまたはアップグレードする方法 .....	34
x86: Oracle Solaris インストールプログラムによる UFS ファイルシステム用のインストールまたはアップグレードの実行 .....	44
▼ x86: GRUB 付き Oracle Solaris インストールプログラムを使用してインストールまたはアップグレードを行う方法 .....	44
<b>3 Oracle Solaris 対話式テキストインストーラによる ZFS ルートプール用のインストール (計画とタスク) .....</b>	<b>57</b>
ZFS ルートプールのインストール (計画) .....	57
Oracle Solaris 対話式テキストインストーラによる ZFS 用の初期インストールの実行 .....	58

▼ SPARC: ZFS ルートプールをインストールする方法 .....	58
x86: Oracle Solaris 対話式テキストインストーラによる ZFS 用の初期インストールの実行 .....	69
▼ x86: GRUB 付き Oracle Solaris 対話式テキストインストーラを使用して ZFS 用にインストールする方法 .....	70
<b>4 iSCSI ターゲットディスクへの Oracle Solaris 10 OS のインストール .....</b>	<b>85</b>
iSCSI インストール (概要) .....	85
ハードウェア要件とファームウェア要件 .....	86
iSCSI の構成とインストール .....	86
iSCSI ターゲットの作成と構成 .....	87
iSCSI パラメータの構成 .....	89
▼ イニシエータの iSCSI パラメータを構成する方法 (対話式テキスト方式) .....	89
iSCSI パラメータの構成: JumpStart インストール方式 .....	92
(例) ターゲットの準備およびターゲットとイニシエータの関連付け .....	94
▼ Oracle Solaris 10 インストール用のターゲットを準備する方法 .....	94
▼ ターゲットをイニシエータに関連付ける方法 .....	95
▼ iSCSI ターゲット上の CHAP 設定を消去する方法 .....	97
索引 .....	99

# はじめに

---

このドキュメントでは、CD または DVD メディアを使用して Oracle Solaris オペレーティングシステム (OS) をネットワークに接続されていないシステムにインストールする方法について説明します。このドキュメントでは、UFS ファイルシステムと ZFS ルートプールをインストールする方法について説明します。

このドキュメントには、システムハードウェアや周辺装置を設定する方法は含まれていません。

---

注 - この Oracle Solaris のリリースでは、SPARC および x86 系列のプロセッサアーキテクチャーを使用するシステムをサポートしています。サポートされるシステムは、Oracle Solaris OS: Hardware Compatibility Lists に記載されています。このドキュメントでは、プラットフォームにより実装が異なる場合は、それを特記します。

このドキュメントの x86 に関連する用語については、次を参照してください。

- x86 は、64 ビットおよび 32 ビットの x86 互換製品系列を指します。
- x64 は特に 64 ビット x86 互換 CPU を指します。
- 「32 ビット x86」は、x86 をベースとするシステムに関する 32 ビット特有の情報を指します。

サポートされるシステムについては、[Oracle Solaris OS: Hardware Compatibility Lists](#) を参照してください。

---

## 対象読者

このドキュメントは、Oracle Solaris OS のインストールを担当するシステム管理者を対象としています。このドキュメントでは、Oracle Solaris のインストールやアップグレードをとときどき行うシステム管理者向けに、Oracle Solaris のインストールに関する基本的な情報を提供します。

Oracle Solaris のインストールに関するより詳細な情報については、[6 ページの「関連情報」](#)を参照して、その情報が記載されているドキュメントを確認してください。

# 関連情報

次の表に、システム管理者向けのドキュメントの一覧を示します。

表 P-1 Oracle Solaris をインストールするシステム管理者向けのドキュメント

説明	情報
システム要件または上位計画の概要に関する情報が必要ですか。あるいは、Oracle Solaris ZFS ルートプールのインストール、GRUB ベースのブート、Oracle Solaris ゾーン区分技術、または RAID-1 ボリュームの作成に関する概要が必要ですか。	『Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: インストールとアップグレードの計画』
停止時間をほとんど設けないで、システムをアップグレードしたり、パッチを適用したりする必要がありますか。Oracle Solaris の機能である Live Upgrade を使うことにより、アップグレード時のシステム停止時間を短縮します。	『Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: Live Upgrade とアップグレードの計画』
ネットワークやインターネットを介してセキュリティー保護されたインストールを行う必要がありますか。WAN ブートを使用して、リモートクライアントをインストールします。あるいは、ネットワークインストールイメージからネットワークを介してインストールする必要がありますか。Oracle Solaris インストールプログラムは、手順を追ってインストールを案内します。	『Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: ネットワークベースのインストール』
複数のマシンに Oracle Solaris をインストールする必要がありますか。JumpStart を使用してインストールを自動化します。	『Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: JumpStart インストール』
複数のシステムをすばやくインストールしたり、パッチを適用したりする必要がありますか。Oracle Solaris の機能であるフラッシュアーカイブを使用してフラッシュアーカイブを作成し、クローンシステム上に OS のコピーをインストールします。	『Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: フラッシュアーカイブ (作成とインストール)』
iSCSI ターゲットシステムに Oracle Solaris をインストールする必要がありますか。	第 4 章「iSCSI ターゲットディスクへの Oracle Solaris 10 OS のインストール」を参照してください。
システムのバックアップが必要ですか。	『Oracle Solaris の管理: デバイスとファイルシステム』の第 19 章「UFS ファイルシステムのバックアップと復元 (概要/タスク)」
トラブルシューティングに関する情報、既知の問題の一覧、またはこのリリース用のパッチの一覧が必要ですか。	『Oracle Solaris Release Notes』
使用しているシステムが Oracle Solaris で動作するかどうかを確認する必要がありますか。	SPARC: 『Solaris Sun ハードウェアプラットフォームガイド』
このリリースで追加されたパッケージ、削除されたパッケージ、または変更されたパッケージを確認する必要がありますか。	『Oracle Solaris Package List』

表 P-1 Oracle Solaris をインストールするシステム管理者向けのドキュメント (続き)

説明	情報
使用しているシステムやデバイスが Solaris SPARC ベースのシステム、x86 ベースのシステム、およびその他のサードパーティーベンダーで動作するかどうかを確認する必要がありますか。	<a href="#">Solaris Hardware Compatibility List (x86 版)</a>

## Oracle サポートへのアクセス

Oracle のお客様は、My Oracle Support を通じて電子的なサポートを利用することができます。詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> を参照してください。聴覚に障害をお持ちの場合は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

## 表記上の規則

次の表では、このマニュアルで使用される表記上の規則について説明します。

表 P-2 表記上の規則

字体	説明	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を使用してすべてのファイルを表示します。 <code>machine_name% you have mail.</code>
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	<code>machine_name% su</code> Password:
aabbcc123	Placeholder: 実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、 <code>rm filename</code> と入力します。
AaBbCc123	書名、新しい単語、および強調する単語を示します。	『ユーザーズガイド』の第 6 章を参照してください。 キャッシュは、ローカルに格納されるコピーです。 ファイルを保存しないでください。 注: いくつかの強調された項目は、オンラインでは太字で表示されます。

# コマンド例のシェルプロンプト

Oracle Solaris OS に含まれるシェルで使用する、UNIX のシステムプロンプトとスーパーユーザープロンプトを次に示します。コマンド例では、シェルプロンプトはコマンドが標準ユーザーまたは特権ユーザーのどちらによって実行されるべきかを示しています。

表 P-3 シェルプロンプト

シェル	プロンプト
Bash シェル、Korn シェル、および Bourne シェル	\$
Bash シェル、Korn シェル、および Bourne シェルのスーパーユーザー	#
C シェル	machine_name%
C シェルのスーパーユーザー	machine_name#

# プラットフォームによる規則

SPARC システムと x86 システムには、キーボードとマウスに関する次のような規則が適用されます。

- このマニュアル中で「Return キー」と表記しているキーは、キーボードによっては「Enter キー」という名前になっていることがあります。
- CDE のデフォルト設定では、3 ボタンマウスの各ボタンは、左から右へ「セレクト」、「アジャスト」、「メニュー」に対応しています。たとえば、「マウスの左ボタンをクリック」と記述する代わりに、「セレクトボタンをクリック」と記述されることがあります。あるいは、マウスボタン 1、マウスボタン 2、マウスボタン 3 と呼ばれることもあります。
- デフォルト設定では、2 ボタンマウスの各ボタンは、左から右へ「セレクト」、「メニュー」に対応しています。アジャストボタンの機能を使用するには、キーボードの Shift キーを押しながらセレクトボタンを押します (Shift キー + セレクト)。



# CD または DVD メディアによる Oracle Solaris のインストールの計画 (タスク)

---

この章では、インストールを正常に完了するための準備について説明します。この章に含まれるセクションは次のとおりです。それに続く章では、SPARC システムおよび x86 システムでの各インストール手順について説明します。

- 9 ページの「システム要件と推奨事項」
- 16 ページの「インストール用のチェックリスト」
- 28 ページの「インストールに関する詳細情報の参照先」

---

注 - このドキュメントではスライスという用語を使用しますが、一部の Oracle Solaris のドキュメントとプログラムでは、スライスのことを「パーティション」と呼んでいる場合があります。混乱を避けるために、このドキュメントでは、`fdisk` パーティション (x86 版 Oracle Solaris でのみサポート) と、スライスやパーティションと呼ばれる `fdisk` パーティション内の分割を区別しています。

---

## システム要件と推奨事項

次の表に、Oracle Solaris OS をインストールするための基本的なシステム要件の一覧を示します。

表 1-1 メモリー、スワップ、およびプロセッサの推奨事項

要件	サイズ
インストールやアップグレードに必要なメモリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ UFS または ZFS ルートファイルシステムの場合、インストールに必要な最小メモリーは 1.5G バイトです。 ただし、オプションのインストール機能の中には、十分なメモリーが存在する場合のみ有効になるものもあります。たとえば、DVD からインストールする場合にメモリーが不足していると、Oracle Solaris インストールプログラムの GUI ではなくテキストインストーラが使用されます。これらのメモリー要件の詳細は、<a href="#">表 1-2</a> を参照してください。</li> <li>■ Oracle Solaris の以前のリリースでは、1T バイトを超えるサイズのディスクに Oracle Solaris OS をインストールしてブートすることはできませんでした。<b>Oracle Solaris 10 10/09</b> 以降のリリースでは、最大 2T バイトのサイズのディスクに Oracle Solaris OS をインストールしてブートできます。 <b>Oracle Solaris 10 10/09</b> 以降のリリースでは、どのようなサイズのディスクでも VTOC ラベルを使用できますが、VTOC によるアドレス割り当てが可能な空間は 2T バイトに制限されています。この機能により、2T バイトより大きなディスクをブートドライブとして使用できますが、ラベルから使用できる空間は 2T バイトに制限されます。  注-この機能は、64 ビットカーネルを実行しているシステムでのみ使用できます。x86 ベースのシステムには、最低 1.5G バイトのメモリーが必要です。 詳細は、『<a href="#">System Administration Guide: Devices and File Systems</a>』の「<a href="#">Two-Terabyte Disk Support for Installing and Booting the Oracle Solaris OS</a>」を参照してください。</li> </ul>
スワップ領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ UFS ファイルシステムの場合、デフォルトのサイズは 512M バイトです。</li> <li>■ ZFS ルートプールについては、『<a href="#">Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: インストールとアップグレードの計画</a>』の「<a href="#">ZFS インストールのディスク容量要件</a>」を参照してください。</li> </ul> <p>注-スワップ空間のカスタマイズが必要になる場合もあります。スワップ領域は、システムのハードディスクのサイズに基づいて決まります。</p>
プロセッサ要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ SPARC ベースのシステムの場合: 200MHz 以上のプロセッサが必要です。</li> <li>■ x86 ベースのシステムの場合: 120MHz 以上のプロセッサを推奨します。ハードウェアによる浮動小数点サポートが必要です。</li> </ul>

# Oracle Solaris インストールプログラムの GUI またはテキストインストーラの要件

Solaris 10 Operating System DVD または Solaris 10 SOFTWARE - 1 CD に入っている Oracle Solaris インストールプログラムは、グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) で、あるいは対話式テキストインストーラとしてデスクトップセッションまたはコンソールセッションで、実行できます。x86 システムの場合、Oracle Solaris インストールプログラムに Solaris Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) が含まれています。

- GUI – Oracle Solaris インストール GUI には、ウィンドウ、プルダウンメニュー、ボタン、スクロールバー、アイコン画像などがあり、これらを使ってインストールプログラムを操作できます。GUI には、ローカルまたはリモートの DVD-ROM ドライブか CD-ROM ドライブ、またはネットワーク接続、およびビデオアダプタ、キーボード、モニター、十分なメモリーが必要です。これらのメモリー要件の詳細は、表 1-2 を参照してください。
- テキストインストーラ – Oracle Solaris の対話式テキストインストーラを使用すると、端末またはコンソールウィンドウに情報を入力してインストールプログラムを操作できます。テキストインストーラは、ウィンドウ表示環境のデスクトップセッションか、コンソールセッションで実行できます。テキストインストーラには、ローカルまたはリモートの DVD-ROM ドライブか CD-ROM ドライブ、またはネットワーク接続、およびキーボードとモニターが必要です。Oracle Solaris インストールテキストインストーラを `tip` コマンドで実行できます。詳細は、[tip\(1\)](#) を参照してください。

ソフトウェアをインストールするときに、GUI を使用する方法、ウィンドウ表示環境を使用する方法、またはウィンドウ表示環境を使用しない方法を選択できます。十分なメモリーがある場合は、デフォルトで GUI が表示されます。GUI を表示できるだけの十分なメモリーがない場合は、デフォルトでその他の環境が表示されます。ブートオプション `nowin` または `text` を使用すると、デフォルト動作をオーバーライドできますが、システムのメモリー量による制限や、リモートでインストールする場合の制限があります。また、ビデオアダプタが検出されない場合、Oracle Solaris インストールプログラムは自動的にコンソールベースの環境で表示されます。

テキストベースと GUI ベースのどちらのインストール方法でも、最小メモリー要件は 1.5G バイト以上です。インストールの種類は次のとおりです。

- テキストベース – 画像は含まれませんが、ウィンドウとほかのウィンドウを開く機能が提供されます。  
`text` ブートオプションを使用している場合でシステムに十分なメモリーがあるときは、ウィンドウ表示環境でインストールされます。`tip` ラインを介してリモートでインストールする場合や、`nowin` ブートオプションを使用してインストールする場合は、コンソールベースのインストールに限定されます。

- GUI ベース - ウィンドウ、プルダウンメニュー、ボタン、スクロールバー、およびアイコン画像が提供されます。

選択を入力するか、プロンプトに特別なコマンドを入力することで、インストールに使用するインストーラを指定することもできます。手順については、第2章「[Oracle Solaris インストールプログラムによる UFS ファイルシステム用のインストール\(タスク\)](#)」を参照してください。

## ディスク容量に関する一般的な計画と推奨事項

ディスク容量の計画のたて方は、ユーザーによって異なります。次の表に、容量を割り当ててする場合のいくつかの条件と考慮事項を示します。

表 1-2 ディスク容量とスワップ領域に関する一般的な計画

容量割り当ての条件	説明
UFS ファイルシステム	<p>ファイルシステムを割り当てて場合には、将来の Oracle Solaris パージョンにアップグレードするときのために、現在必要な容量よりも 30% 多く割り当ててください。</p> <p>デフォルトでは、ルート(/)とスワップ領域(/swap)だけが作成されます。OS サービスのためにディスク容量が割り当てられたときは、/export ディレクトリも作成されます。Oracle Solaris のメジャーリリースにアップグレードする場合は、システムのスライスを切り直すか、インストール時に必要な容量の 2 倍を割り当てる必要があります。Solaris Update にアップグレードする場合は、将来のアップグレードに備えて余分のディスク容量を追加しておけば、システムのスライスを切り直す手間を軽減できます。Oracle Solaris Update リリースにアップグレードするたびに、直前のリリースに比べておよそ 10% のディスク容量が追加で必要になります。ファイルシステムごとに 30% のディスク容量を追加しておく、Oracle Solaris Update を数回追加できます。</p> <p>注 - Oracle Solaris の以前のリリースでは、1T バイトを超えるサイズのディスクに Oracle Solaris OS をインストールしてブートすることはできませんでした。<b>Oracle Solaris 10 10/09</b>以降のリリースでは、最大 2T バイトのサイズのディスクに Oracle Solaris OS をインストールしてブートできます。</p> <p><b>Oracle Solaris 10 10/09</b>以降のリリースでは、どのようなサイズのディスクでも VTOC ラベルを使用できますが、VTOC によるアドレス割り当てが可能な空間は 2T バイトに制限されています。この機能により、2T バイトより大きなディスクをブートドライブとして使用できますが、ラベルから使用できる空間は 2T バイトに制限されます。</p> <p>この機能は、64 ビットカーネルを実行しているシステムでのみ使用できます。x86 ベースのシステムには、最低 1.5G バイトのメモリーが必要です。</p> <p>詳細は、『<a href="#">System Administration Guide: Devices and File Systems</a>』の「<a href="#">Two-Terabyte Disk Support for Installing and Booting the Oracle Solaris OS</a>」を参照してください。</p>
UFS ファイルシステムの /var ファイルシステム	クラッシュダンプ機能 <a href="#">savecore(1M)</a> を使用する場合は、/var ファイルシステムの容量を物理メモリーの倍のサイズに設定します。

表 1-2 ディスク容量とスワップ領域に関する一般的な計画 (続き)

容量割り当ての条件	説明
スワップ	<p>注-ZFS ルートプールのスワップの割り当てについては、<a href="#">『Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: インストールとアップグレードの計画』の「ZFS インストールのディスク容量要件」</a>を参照してください。</p> <p>UFS ファイルシステムの場合、次の条件では、Oracle Solaris インストールプログラムは 512M バイトのデフォルトのスワップ領域を割り当てます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ インストールプログラムによるディスクスライスの自動配置機能を使用する場合</li> <li>■ スワップスライスのサイズを手作業で変更しない場合</li> </ul> <p>デフォルトでは、Oracle Solaris インストールプログラムは、利用可能な最初のディスクシリンダ (SPARC ベースのシステムでは通常シリンダ 0) でスワップが開始されるようにスワップ空間を割り当てます。この配置によって、デフォルトのディスクレイアウト時にはルート (/) ファイルシステムに最大の空間を割り当てることができ、アップグレード時にはルート (/) ファイルシステムを拡張できます。</p> <p>将来スワップ領域を拡張することを考えている場合、次のいずれかの手順を実行してスワップスライスを配置することにより、別のディスクシリンダでスワップスライスを開始できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Oracle Solaris インストールプログラムの場合、シリンダモードでディスクレイアウトをカスタマイズして、スワップスライスを目的の位置に手動で割り当てることができます。</li> <li>■ JumpStart インストールプログラムの場合、プロファイルファイル内でスワップスライスを割り当てることができます。JumpStart プロファイルファイルの詳細は、<a href="#">『Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: JumpStart インストール』の「プロファイルの作成」</a>を参照してください。</li> </ul> <p>スワップ空間の概要については、<a href="#">『Oracle Solaris の管理: デバイスとファイルシステム』の第 16 章「追加スワップ空間の構成 (タスク)」</a>を参照してください。</p>
ホームディレクトリファイルシステムを提供するサーバー	ホームディレクトリは、通常デフォルトで /export ファイルシステムにあります。
インストールする Oracle Solaris ソフトウェアグループ	ソフトウェアグループはソフトウェアパッケージの集まりです。ディスク容量を計画する際には、選択したソフトウェアグループから個々のソフトウェアパッケージを個別に追加したり削除したりできることを覚えておいてください。ソフトウェアグループの詳細は、 <a href="#">14 ページの「ソフトウェアグループごとの推奨ディスク容量」</a> を参照してください。
アップグレード	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Live Upgrade を使用して非アクティブブート環境をアップグレードする際に、ディスク容量の計画に関する情報を必要とする場合は、<a href="#">『Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: Live Upgrade とアップグレードの計画』の「Live Upgrade のディスク容量の要件」</a>を参照してください</li> <li>■ ほかの Oracle Solaris インストール方法を使用してディスク容量を計画する場合は、<a href="#">『Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: インストールとアップグレードの計画』の「ディスク容量の再配置を伴うアップグレード」</a>を参照してください。</li> </ul>

表 1-2 ディスク容量とスワップ領域に関する一般的な計画 (続き)

容量割り当ての条件	説明
言語サポート	単一の言語をインストールする場合は、約 0.7G バイトのディスク容量をその言語用に追加して割り当ててください。すべての言語のサポートをインストールする場合は、インストールするソフトウェアグループに応じて、最大で約 2.5G バイトのディスク容量を追加して割り当てする必要があります。
印刷やメールのサポート	容量を追加します。
追加ソフトウェアや Sun 以外のソフトウェア	容量を追加します。

## ソフトウェアグループごとの推奨ディスク容量

Oracle Solaris ソフトウェアグループは Oracle Solaris パッケージの集まりです。それぞれのソフトウェアグループには、異なる機能やハードウェアドライバのサポートが含まれています。

- 初期インストールの場合は、システムでどの機能を実行するかを考慮して、インストールするソフトウェアグループを選択します。
- アップグレードの場合は、システムにインストールされているソフトウェアグループでアップグレードする必要があります。たとえば、システムにエンドユーザーシステムサポートがインストールされている場合には、開発者システムサポートにアップグレードするオプションは使用できません。ただし、アップグレード中に、インストール済みのソフトウェアグループに属していないソフトウェアをシステムに追加することはできます。

Oracle Solaris ソフトウェアのインストール時には、選択した Oracle Solaris ソフトウェアグループに対してパッケージを追加したり、削除したりできます。パッケージの追加や削除を行う場合には、ソフトウェアの依存関係や Oracle Solaris ソフトウェアがどのようにパッケージ化されているかを知っている必要があります。

次の図は、ソフトウェアパッケージのグループを示しています。限定ネットワークシステムサポートには、最小限の数のパッケージが含まれています。全体ディストリビューションと OEM サポートには、すべてのパッケージが含まれています。

図 1-1 Oracle Solaris ソフトウェアグループ

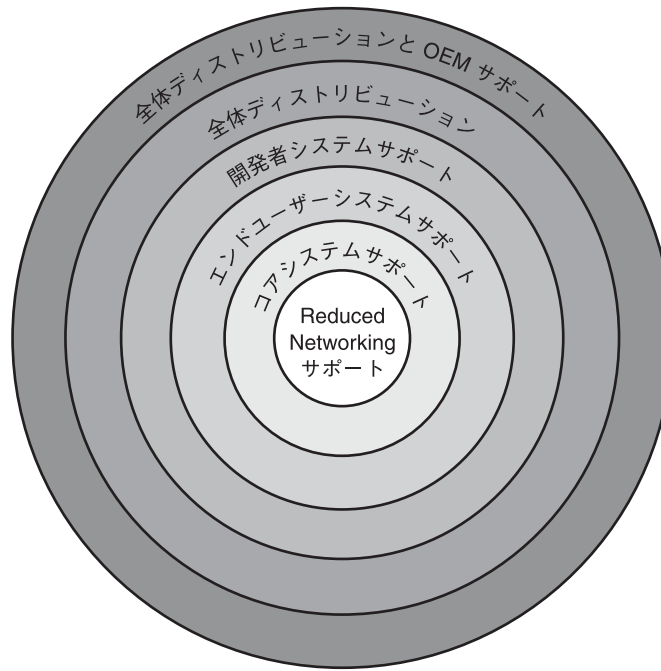


表 1-3 に、Oracle Solaris ソフトウェアグループ、およびそれぞれのグループのインストールに推奨されるディスク容量の一覧を示します。この表の推奨ディスク容量には、次の項目の容量も含まれています。

- スワップ空間
- パッチ
- 追加のソフトウェアパッケージ

各ソフトウェアグループに必要なディスク容量は、この表に一覧表示されている容量より少ない場合があります。

ディスク容量の計画方法の詳細は、『[Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: インストールとアップグレードの計画](#)』の「ディスク容量とスワップ空間の割り当て」を参照してください。

表 1-3 ソフトウェアグループごとの推奨ディスク容量

ソフトウェアグループ	説明	推奨ディスク容量
全体ディストリビューションと OEM サポート	全体ディストリビューションのパッケージに加え、追加のハードウェアドライバが含まれています。これには、インストール時にシステムに存在していないハードウェアのドライバも含まれます。	8575M バイト



表 1-3 ソフトウェアグループごとの推奨ディスク容量 (続き)

ソフトウェアグループ	説明	推奨ディスク容量
全体ディストリビューション	開発者システムサポートのパッケージに加え、サーバーに必要な追加のソフトウェアが含まれています。	8529M バイト
開発者システムサポート	エンドユーザーシステムサポートのパッケージに加え、ソフトウェア開発用の追加のサポートが含まれています。ソフトウェア開発のサポートとして、ライブラリ、インクルードファイル、マニュアルページ、プログラミングツールなどが追加されています。ただし、コンパイラは含まれていません。	8336M バイト
エンドユーザーシステムサポート	ネットワークに接続された Oracle Solaris システムと共通デスクトップ環境 (CDE) のブートと実行に必要な最小限のコードを提供するパッケージが含まれています。	7074M バイト
コアシステムサポート	ネットワークに接続された Oracle Solaris システムのブートと実行に必要な最小限のコードを提供するパッケージが含まれています。	3093M バイト
限定ネットワークシステムサポート	ネットワークサービスのサポートが限定された Oracle Solaris システムをブートおよび実行するために必要な最小限のコードを提供するパッケージが含まれています。Reduced Networking サポートは、テキストベースのマルチユーザーコンソールと、システム管理ユーティリティを提供します。このソフトウェアグループを使用すると、システムでネットワークインタフェースを認識できますが、ネットワークサービスがアクティブになることはありません。	3035M バイト

## インストール用のチェックリスト

Oracle Solaris OS のインストールに必要な情報を収集するには、次のチェックリストを使用します。ただし、チェックリストに記載されているすべての情報を収集する必要はありません。使用するシステムに関連する情報だけを収集してください。

このチェックリストは、初期インストールを行う場合のみ使用してください。システムのアップグレードを行う場合は、『[Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: インストールとアップグレードの計画](#)』の「アップグレード用のチェックリスト」を参照してください。



注-システムに非大域ゾーンが含まれている場合は、アップグレードプログラムまたはパッチを追加するプログラムとして、Oracle Solaris の機能である Live Upgrade を推奨します。ほかのアップグレードプログラムでは、膨大なアップグレード時間が必要となる場合があります。これは、アップグレードの実行に要する時間が、インストールされている非大域ゾーンの数に比例して増加するからです。

Oracle Solaris の機能である Live Upgrade を使ったアップグレード方法については、『[Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: Live Upgrade とアップグレードの計画](#)』のパート I 「Live Upgrade を使ったアップグレード」を参照してください。

表 1-4 インストール用チェックリスト

インストールに必要な情報	説明/例	答えアスタリスク(*)はデフォルトを示します
ネットワーク接続	このシステムはネットワークに接続されていますか。	接続されている/接続されていない

表 1-4 インストール用チェックリスト (続き)

インストールに必要な情報	説明/例	答ーアスタリスク(*)はデフォルトを示します
Oracle Solaris の機能である自動登録の資格情報とプロキシ情報	<p>オラクルの自動登録のサポート資格情報とプロキシ情報を指定します。</p> <p>Oracle Solaris 自動登録は、Oracle Solaris 10 9/10 リリースで新規に追加された機能です。システムをインストールまたはアップグレードすると、システムの構成データは、既存のサービスタグ技術によってリブート時に自動的にオラクル製品登録システムに伝達されます。システムに関するこのサービスタグデータは、オラクルの顧客向けサポートとサービスの向上などに役立てられます。サービスタグについては、<a href="http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/solaris/oracle-service-tag-faq-418684.html">http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/solaris/oracle-service-tag-faq-418684.html</a> を参照してください。</p> <p>この同じ構成データを使用して、システム独自の目録を作成および管理することができます。下の登録オプションのいずれかを使ってサポート資格情報に登録することで、システムおよびシステムにインストールされているソフトウェア製品のサービスタグを記録および追跡して、システムのインベントリを簡単に作成できます。</p> <p>インストールまたはアップグレードの前に、<code>auto_reg</code> キーワードを <code>sysidcfg</code> ファイルに追加して、次に示すように自動登録構成を構成できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自動登録のサポート資格情報とプロキシ情報を指定します。</li> <li>■ 匿名の登録を設定して、オラクルに送信する構成データとカスタマの名前がリンクしないようにします。</li> <li>■ 自動登録を無効にして、構成データがオラクルに送信されないようにします。</li> </ul> <p>手順については、『Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: ネットワークベースのインストール』の「<code>auto_reg</code> キーワード」を参照してください。</p> <p><code>sysidcfg</code> ファイルに <code>auto_reg</code> キーワードを事前に設定しない場合は、対話式のインストールまたはアップグレードの実行時に、サポート資格情報を指定するか、匿名で登録するように求められます。サポート資格情報を指定しない場合、システムは匿名のシステムとして登録されます。また、必要に応じて、プロキシ情報も指定するように求められます。</p> <p>または、リブートする前に、インストールまたはアップグレードの最後で自動登録を無効にすることもできます。このガイドのインストール手順の一部として含まれている、無効にするための手順を参照してください。</p>	<p>My Oracle Support のユーザー名とパスワード</p> <p>プロキシサーバーホスト名とポート番号</p> <p>HTTP プロキシユーザー名とパスワード</p>

表 1-4 インストール用チェックリスト (続き)

インストールに必要な情報	説明/例	答えアスタリスク(*)はデフォルトを示します
ネットワークセキュリティ	<p><b>Solaris 10 11/06</b> 以降のリリースでは、初期インストール時にネットワークセキュリティ設定を変更することができ、Secure Shell を除くすべてのネットワークサービスを無効にしたり、応答する要求をローカル要求だけに制限したりすることができます。このセキュリティオプションを使用できるのは初期インストールのときだけで、アップグレード時には使用できません。アップグレードでは、以前に設定したサービスが保持されます。ただし <code>netservices</code> コマンドを使用すれば、必要に応じてアップグレード後にネットワークサービスを制限することができます。</p> <p>インストール時に、制限されたネットワークセキュリティを選択できます。または、Oracle Solaris の以前のリリースと同様に、より多くのサービスを有効にすることもできます。インストール後に任意のサービスを個別に有効にできるため、制限付きネットワークセキュリティを選択しても問題ありません。これらのオプションについての詳細は、『<a href="#">Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: インストールとアップグレードの計画</a>』の「ネットワークセキュリティの計画」を参照してください。</p> <p>ネットワークサービスは、<code>netservices open</code> コマンドを使用するか、SMF コマンドを使用して個別にサービスを有効にする方法で、インストール後に有効にすることができます。『<a href="#">Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: インストールとアップグレードの計画</a>』の「インストール後のセキュリティ設定の修正」を参照してください。</p>	制限されたネットワークセキュリティ/オープンネットワークセキュリティ
DHCP	<p>このシステムでは、DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) を使ってネットワークインタフェースを構成しますか。</p> <p>DHCP はインストールに必要なネットワークパラメータを提供します。</p>	はい/いいえ*

表 1-4 インストール用チェックリスト (続き)

インストールに必要な情報		説明/例	答えアスタリスク(*)はデフォルトを示します
DHCP を使用しない場合は、ネットワークアドレスをメモします。	IP アドレス	DHCP を使用しない場合は、このシステムの IP アドレスを指定します。  例: 172.31.255.255  稼働中のシステムについてこの情報を調べるには、次のコマンドを入力します。  <b># ypmatch host-name hosts</b>	
	サブネット	DHCP を使用しない場合、このシステムはサブネットの一部ですか。  「はい」の場合は、サブネットのネットマスクを指定します。  例: 255.255.255.0  稼働中のシステムについてこの情報を調べるには、次のコマンドを入力します。  <b># more /etc/netmasks</b>	
	IPv6	このマシンで IPv6 を使用可能にしますか。  IPv6 は TCP/IP インターネットプロトコルの 1 つで、より強固なセキュリティを追加し、インターネットアドレスを増やすことで、IP アドレスの指定を容易にします。	はい/いいえ*
ホスト名		このシステムのホスト名。  稼働中のシステムについてこの情報を調べるには、次のコマンドを入力します。  <b># uname -n</b>	
Kerberos		このマシンに Kerberos セキュリティを構成しますか。  「はい」の場合は、次の情報を収集します。  デフォルトのレルム:  管理サーバー:  一次 KDC:  (オプション) 追加 KDC:  Kerberos サービスは、ネットワーク経由でのセキュリティ保護されたトランザクションを提供するクライアントサーバーアーキテクチャーです。	はい/いいえ*

表1-4 インストール用チェックリスト (続き)

インストールに必要な情報	説明/例	答えアスタリスク(*)はデフォルトを示します
システムでネームサービスを使用する場合は、次の情報を指定します。	<p>このシステムではどのネームサービスを使用しますか。</p> <p>稼働中のシステムについてこの情報を調べるには、次のコマンドを入力します。</p> <pre># cat /etc/nsswitch.conf</pre> <p>ネームサービスの情報は1か所に保管されているので、ユーザー、マシン、およびアプリケーションはネットワーク上で相互に通信できます。たとえば、ホスト名とアドレスまたはユーザー名とパスワードなどの情報が保管されています。</p>	NIS+/NIS/DNS/ LDAP/使用しない
	<p>ドメイン名</p> <p>システムが属するドメインの名前を指定します。</p> <p>インストール時に、デフォルトの NFSv4 ドメイン名を選択できます。あるいは、カスタムの NFSv4 ドメイン名を指定することもできます。</p> <p>稼働中のシステムのドメイン名を確認する方法については、『Solaris のシステム管理(ネットワークサービス)』の「NFS version 4 のドメインを確認する」を参照してください。</p> <p>sysidcfg ファイル内に NFSv4 ドメイン名を事前に構成する場合は、『Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: ネットワークベースのインストール』の「nfs4_domain キーワード」を参照してください。</p>	

表 1-4 インストール用チェックリスト (続き)

インストールに必要な情報		説明/例	答えアスタリスク(*)はデフォルトを示します
	NIS+ および NIS	<p>ネームサーバーを指定しますか、それともインストールプログラムにネームサーバーの検索を任せますか。</p> <p>ネームサーバーを指定する場合は、次の情報を指定します。</p> <p style="text-align: right;">サーバーのホスト名:</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ NIS クライアントの場合、サーバーのホスト名を表示するには次のコマンドを入力します。  <b># ypwhich</b></li><li>■ NIS+ クライアントの場合、サーバーのホスト名を表示するには次のコマンドを入力します。  <b># nisping</b></li></ul> <p style="text-align: right;">サーバーの IP アドレス:</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ NIS クライアントの場合、サーバーの IP アドレスを表示するには次のコマンドを入力します。  <b># ypmatch nameserver-name hosts</b></li><li>■ NIS+ クライアントの場合、サーバーの IP アドレスを表示するには次のコマンドを入力します。  <b># nismatch nameserver-name hosts.org_dir</b></li></ul> <p>ネットワーク情報サービス (NIS) は、マシン名やアドレスなどのさまざまなネットワーク情報を 1 つの場所で管理することによって、ネットワーク管理を容易にするためのサービスです。</p>	指定/検索*

表 1-4 インストール用チェックリスト (続き)

インストールに必要な情報		説明/例	答えアスタリスク(*)はデフォルトを示します
	DNS	<p>DNS サーバーの IP アドレスを指定します。DNS サーバーの IP アドレスを少なくとも 1 つ、最大 3 つまで指定します。</p> <p style="text-align: right;">サーバーの IP アドレス:</p> <p>サーバーの IP アドレスを表示するには、次のコマンドを入力します。</p> <p><b># getent hosts dns</b></p> <p>DNS 検索を行うときに検索するドメインのリストを入力できます。</p> <p style="text-align: right;">検索するドメインのリスト:</p> <p>ドメインネームシステム (DNS) は、インターネットが TCP/IP ネットワーク用に提供するネームサービスです。DNS は、ホスト名から IP アドレスに変換するサービスを提供します。数値表現の IP アドレスの代わりにマシン名を使用するので、通信が簡単になります。また、メール管理用のデータベースとしての働きもします。</p>	
	LDAP	<p>LDAP プロファイルに関する次の情報を指定します。</p> <p style="text-align: right;">プロファイル名:</p> <p style="text-align: right;">プロファイルサーバーのホスト名:</p> <p>LDAP プロファイルでプロキシ資格レベルを指定した場合、この情報を収集します。</p> <p style="text-align: right;">プロキシバインドの識別名:</p> <p style="text-align: right;">プロキシバインドのパスワード:</p> <p>LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) は、TCP/IP を使って動作するディレクトリを更新したり検索したりするときに使用される、比較的単純なプロトコルです。</p>	

表 1-4 インストール用チェックリスト (続き)

インストールに必要な情報	説明/例	答ーアスタリスク(*)はデフォルトを示します
デフォルトルート	<p>デフォルトルート IP アドレスを指定しますか、それとも Oracle Solaris インストールプログラムに IP アドレスの検索を任せますか。</p> <p>デフォルトルートは、2つの物理ネットワーク間のトラフィック転送用のブリッジを提供します。IP アドレスは、ネットワーク上の各ホストを識別する一意の番号です。</p> <p>次のうちから選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ IP アドレスを指定できます。指定された IP アドレスを使用して <code>/etc/defaultrouter</code> ファイルが作成されます。システムをリブートすると、指定された IP アドレスがデフォルトルートになります。</li> <li>■ Oracle Solaris インストールプログラムに IP アドレスを検出させることができます。ただし、システムは、ICMP ルーター発見プロトコルを使用して自らを通知するルーターの存在するサブネット上になければなりません。コマンド行インタフェースを使用している場合は、システムのブート時に IP アドレスが検出されます。</li> <li>■ ルーターが存在しない場合、または今回はソフトウェアに IP アドレスを検出させない場合は、「なし」を選択します。リブート時に、ソフトウェアが自動的に IP アドレスの検出を試みます。</li> </ul>	検出*/指定/なし
タイムゾーン	デフォルトのタイムゾーンをどのように指定しますか。	地域* GMT との時差 タイムゾーンファイル
ルートパスワード	システムのルートパスワードを指定します。	



表1-4 インストール用チェックリスト (続き)

インストールに必要な情報	説明/例	答ーアスタリスク(*)はデフォルトを示します
キーボード	<p>キーボードが自己識別型である場合は、インストール時にキーボードの言語および配列が自動的に構成されます。キーボードが自己識別型でない場合は、インストール時にサポートされているキー配列の一覧から選択できます。</p> <p>PS/2 キーボードは自己識別型ではありません。インストール時にキー配列を選択するように求められます。</p> <p>SPARC のみ-以前は、自己識別型でないキーボードはすべて、インストール時に必ず米国英語 (U.S. English) キー配列に構成されていました。</p> <p>詳細は、『<a href="#">Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: ネットワークベースのインストール</a>』の「<a href="#">keyboard キーワード</a>」を参照してください。</p>	
ロケール	どの地域のサポートをインストールしますか。	
SPARC: 電源管理 (電源管理システムをサポートする SPARC システムの場合のみ)	<p>電源管理システムを使用しますか。</p> <p>注- システムに Energy Star バージョン 3 以降がある場合、この情報の入力はありません。</p>	はい*/いいえ
自動的なリブートまたは CD/DVD 取り出し	<p>ソフトウェアをインストールした後に自動的にリブートしますか。</p> <p>ソフトウェアをインストールした後に CD/DVD を自動的に取り出しますか。</p>	はい*/いいえ はい*/いいえ
デフォルトインストールまたはカスタムインストール	<p>デフォルトのインストールを実行しますか、それともインストールをカスタマイズしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ デフォルトインストールを選択すると、ハードディスク全体がフォーマットされ、事前選択されている一連のソフトウェアがインストールされます。</li> <li>■ カスタムインストールを選択すると、ハードディスクの配置を変更したり、必要なソフトウェアを選択してインストールしたりできます。</li> </ul> <p>注- テキストインストーラでは、「デフォルトインストール」か「カスタムインストール」かの選択は表示されません。デフォルトインストールを実行するには、テキストインストーラに表示されるデフォルト値をそのまま使用します。カスタムインストールを実行するには、テキストインストーラの画面で値を編集します。</p>	デフォルトインストール */カスタムインストール

インストールに必要な情報	説明/例	答え
ソフトウェアグループ	どの Oracle Solaris ソフトウェアグループをインストールしますか。	<p>答ーアスタリスク(*)はデフォルトを示します</p> <p>全体ディストリビューションと OEM サポート</p> <p>全体ディストリビューション*</p> <p>開発者システムサポート</p> <p>エンドユーザーシステムサポート</p> <p>コアシステムサポート</p> <p>限定ネットワークシステムサポート</p>
カスタムパッケージ選択	<p>インストールする Oracle Solaris ソフトウェアグループに対してソフトウェアパッケージの追加や削除を行いますか。</p> <p>注-パッケージの追加や削除を行う場合には、ソフトウェアの依存関係や Oracle Solaris ソフトウェアがどのようにパッケージ化されているかを知っている必要があります。</p>	
ディスクの選択	<p>Oracle Solaris ソフトウェアをどのディスクにインストールしますか。</p> <p>例: c0t0d0</p>	
x86: fdisk によるパーティション分割	<p>fdisk パーティションの作成、削除、または変更を行いますか。</p> <p>ファイルシステムを配置するディスクには、Oracle Solaris の fdisk パーティションが必要です。</p> <p>システムに現在サービスパーティションがある場合、Oracle Solaris インストールプログラムはデフォルトでサービスパーティションを保持します。サービスパーティションを保持しない場合、fdisk パーティションをカスタマイズする必要があります。サービスパーティションの保持については、『Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: インストールとアップグレードの計画』の「デフォルトのブートディスクパーティションレイアウトで保存されるサービスパーティション」を参照してください。</p> <p>fdisk パーティションのカスタマイズのためにディスクを選択しますか。</p> <p>fdisk パーティションをカスタマイズしますか。</p>	<p>はい/いいえ*</p> <p>はい/いいえ*</p>

表 1-4 インストール用チェックリスト (続き)

インストールに必要な情報	説明/例	答えアスタリスク(*)はデフォルトを示します
データの保持	Oracle Solaris ソフトウェアをインストールするために選択したディスク上の既存のデータを保持しますか。	はい/いいえ*
ファイルシステムの自動配置	<p>インストールプログラムに、ディスク上のファイルシステムを自動的に配置させますか。</p> <p>「はい」の場合は、どのファイルシステムを自動配置しますか。</p> <p>例: /、/opt、/var</p> <p>「いいえ」の場合は、手作業でファイルシステムを配置する必要があります。</p> <p>注 - Oracle Solaris インストール GUI は、デフォルトでファイルシステムを自動配置します。</p>	はい*/いいえ
リモートファイルシステムのマウント	<p>このシステムからほかのファイルシステムにあるソフトウェアにアクセスする必要がありますか。</p> <p>必要な場合、リモートファイルシステムに関する次の情報を用意します。</p> <p>サーバー:</p> <p>IP アドレス:</p> <p>リモートファイルシステム:</p> <p>ローカルマウントポイント:</p>	はい/いいえ*
tip ラインを介してインストールを行う場合の指示	<p>ウィンドウ表示が横 80 桁、縦 24 行以上あるか確認します。詳細は、<a href="#">tip(1)</a> を参照してください。</p> <p>tip ウィンドウの現在の大きさを調べるには、stty コマンドを使用します。詳細は、<a href="#">stty(1)</a> のマニュアルページを参照してください。</p>	
Ethernet 接続の確認	システムがネットワークに接続されている場合は、Ethernet コネクタまたはそれに類似したネットワークアダプタがシステムに装着されていることを確認します。	

表 1-4 インストール用チェックリスト (続き)

インストールに必要な情報	説明/例	答えアスタリスク(*)はデフォルトを示します
計画の章とほかの関連ドキュメントの確認	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 計画の章の全体または個々のセクションを、『Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド:インストールとアップグレードの計画』のパート I「Oracle Solaris のインストールまたはアップグレードの計画概要」で確認します。</li><li>■ <a href="http://www.oracle.com/technetwork/indexes/documentation/index.html">http://www.oracle.com/technetwork/indexes/documentation/index.html</a> の『Oracle Solaris 10 8/11 ご使用にあたって』やベンダーのリリースノートを参照して、使用するソフトウェアが Oracle Solaris の新しいリリースでサポートされていることを確認します。</li><li>■ 『Oracle Solaris 10 8/11 Sun ハードウェアプラットフォームガイド』を参照して、使用するハードウェアがサポートされていることを確認します。</li><li>■ システムに添付されている資料を参照して、使用するシステムやデバイスが Oracle Solaris リリースでサポートされていることを確認します。</li></ul>	

# インストールに関する詳細情報の参照先

Oracle Solaris OS をインストールするための要件と推奨事項の詳細は、次に挙げる『Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド:インストールとアップグレードの計画』の各セクションを参照してください。このドキュメントには、ファイルシステムの計画のガイドラインやアップグレードの計画など、システム要件と高度な計画についての情報が含まれています。

表 1-5 インストールに関する参照先

トピック	参照
ネットワークセキュリティの計画	『Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド:インストールとアップグレードの計画』の「ネットワークセキュリティの計画」
ディスク容量のガイドラインと推奨事項	『Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド:インストールとアップグレードの計画』の「ディスク容量とスワップ空間の割り当て」

表 1-5 インストールに関する参照先 (続き)

トピック	参照
Oracle Solaris OS をアップグレードするための追加の要件と推奨事項	『Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: インストールとアップグレードの計画』の「アップグレード計画」  『Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: インストールとアップグレードの計画』の「アップグレード用のチェックリスト」
インストール時の x86 パーティションの操作に関する情報	『Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: インストールとアップグレードの計画』の「パーティション分割に関する推奨事項」
ZFS のインストール、GRUB ベースのブート、Oracle Solaris ゾーン区分技術、およびインストール時に作成可能な RAID-1 ボリュームに関する情報	『Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: インストールとアップグレードの計画』のパート II 「ZFS、ブート、Oracle Solaris ゾーン、および RAID-1 ボリュームに関連するインストールについて」
インストールプロセス全体のロードマップ	『Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: インストールとアップグレードの計画』の「Oracle Solaris ソフトウェアのインストールまたはアップグレード (タスクマップ)」



## Oracle Solaris インストールプログラムによる UFS ファイルシステム用のインストール(タスク)

---

この章では、Oracle Solaris Operating System DVD または Oracle Solaris SOFTWARE - 1 CD に含まれている Oracle Solaris インストールプログラムを使用して、Oracle Solaris ソフトウェアをインストールまたはアップグレードする方法について説明します。

---

注- この章では、UFS ルート (/) ファイルシステムのインストール手順について説明します。ZFS ルートプールをインストールする場合は、第 3 章「Oracle Solaris 対話式テキストインストーラによる ZFS ルートプール用のインストール (計画とタスク)」を参照してください。

---

この章の内容は、次のとおりです。

- 34 ページの「SPARC: Oracle Solaris インストールプログラムによる UFS ファイルシステム用のインストールまたはアップグレードの実行」
- 44 ページの「x86: Oracle Solaris インストールプログラムによる UFS ファイルシステム用のインストールまたはアップグレードの実行」

Oracle Solaris OS におけるすべての新機能については、『Oracle Solaris 10 1/13 の新機能』を参照してください。

# インストールまたはアップグレードの事前準備

## ▼ インストールまたはアップグレードを準備する方法

- 1 必要なメディアを用意してください。

次のオプションのいずれかを選択します。

- DVD からインストールする場合は、Oracle Solaris Operating System DVD (x86 版) を使用してください。
- CD メディアからインストールする場合:

次のメディアが必要です。

- Oracle Solaris ソフトウェア CD。
- Oracle Solaris Languages CD (x86 版) – 特定の地域の言語をサポートする必要がある場合は、インストールプログラムによってこれらの CD を求めるプロンプトが表示されます。

---

注 – **Oracle Solaris 10 9/10** リリース以降では、DVD のみが提供されます。Oracle Solaris ソフトウェア CD は提供されません。

---

- 2 システムの **BIOS** を調べて、**CD** または **DVD** メディアからブートできることを確認します。

- 3 使用するハードウェアに **Oracle Solaris OS** をインストールするために必要なインストール時更新 (ITU) やドライバをすべて入手します。

ITU や追加のドライバが必要かどうかを調べるには、ハードウェアのドキュメントを参照してください。

- 4 システムの最小要件を満たしていることを確認します。

システムの必要条件は次のとおりです。

- メモリー – 1.5G バイト以上
- ディスク容量 – 6.8G バイト以上
- プロセッサ速度 – 120 MHz 以上。ハードウェアによる浮動小数点サポートが必要です

システム要件の詳細については、[9 ページ](#)の「**システム要件と推奨事項**」を参照してください。



Oracle Corporation 以外で製造されたシステムに Oracle Solaris OS をインストールする場合は、インストールを開始する前に、Oracle Solaris Hardware Compatibility List (<http://www.oracle.com/webfolder/technetwork/hcl/index.html>) を確認してください。

## 5 Oracle Solaris OS のインストールに必要な情報を収集します。

- ネットワークに接続されていないシステムの場合:

必要な情報を次に示します。

- インストールするシステムのホスト名
- システムで使用する予定の言語とロケール
- ネットワークに接続されたシステムの場合は、次の情報を収集します。
  - インストールするシステムのホスト名
  - キーボード配列

---

注-キーボードが自己識別型の場合は、インストール時にキー配列が自動的に構成されます。キーボードが自己識別型でない場合は、インストール時にサポートされているキー配列の一覧から選択できます。

詳細は、『Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: ネットワークベースのインストール』の「keyboard キーワード」を参照してください。

---

- システムで使用する予定の言語とロケール
- ホスト IP アドレス
- サブネットマスク
- ネームサービスの種類 (DNS、NIS、NIS+ など)
- ドメイン名

---

注-インストール時に、デフォルトの NFSv4 ドメイン名を選択できます。あるいは、カスタムの NFSv4 ドメイン名を指定することもできます。

---

- ネームサーバーのホスト名
- ネームサーバーのホスト IP アドレス
- root パスワード

## SPARC: Oracle Solaris インストールプログラムによる UFS ファイルシステム用のインストールまたはアップグレードの実行

UFS ファイルシステムの場合、Oracle Solaris インストールプログラムを使用して、Oracle Solaris OS をインストールまたはアップグレードすることができます。このセクションでは、Oracle Solaris OS のインストールに必要なタスクの一覧を示し、DVD または CD メディアから Oracle Solaris OS をインストールする方法についての詳しい手順を説明します。

DVD-ROM または CD-ROM ドライブが直接接続されていないマシンやドメインに Oracle Solaris OS をインストールする場合は、別のマシンに接続されている DVD-ROM または CD-ROM ドライブを使用できます。手順の詳細は、『[Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: ネットワークベースのインストール](#)』の付録 B 「リモートからのインストールまたはアップグレード (タスク)」を参照してください。

---

注 - **Oracle Solaris 10 9/10** リリース以降では、DVD のみが提供されます。Oracle Solaris ソフトウェア CD は提供されません。

システムに非大域ゾーンが含まれている場合は、アップグレードプログラムまたはパッチを追加するプログラムとして、Oracle Solaris の機能である Live Upgrade を推奨します。ほかのアップグレードプログラムでは、膨大なアップグレード時間が必要となる場合があります。これは、アップグレードの実行に要する時間が、インストールされている非大域ゾーンの数に比例して増加するからです。

Oracle Solaris の機能である Live Upgrade を使ったアップグレード方法については、『[Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: Live Upgrade とアップグレードの計画](#)』のパート I 「Live Upgrade を使ったアップグレード」を参照してください。

---

### ▼ SPARC: Oracle Solaris インストールプログラムを使用してインストールまたはアップグレードする方法

この手順では、スタンドアロンの SPARC システムを CD または DVD メディアから UFS ファイルシステムのためにインストールする方法について説明します。インストールまたはアップグレードを準備する方法の詳細については、[32 ページの「インストールまたはアップグレードを準備する方法」](#)を参照してください。

- 1 **Oracle Solaris Operating System DVD (SPARC 版) または Oracle Solaris SOFTWARE - 1 CD (SPARC 版)** を挿入します。

## 2 システムをブートします。

- 新しく購入したばかりのシステムの場合は、システムの電源を入れます。
- 稼働中のシステムにインストールを行う場合は、システムをシャットダウンします。

ok プロンプトが表示されます。

## 3 Oracle Solaris インストールプログラムを起動します。

- ローカルの DVD または CD からブートし、**Oracle Solaris** インストール GUI をデスクトップセッションでブートするには、次のコマンドを入力します。

ok **boot cdrom**

- ローカルの DVD または CD からブートし、テキストインストーラをデスクトップセッションでブートするには、次のコマンドを入力します。

ok **boot cdrom - text**

text     テキストインストーラをデスクトップセッションで実行することを指定します。このオプションは、デフォルトの GUI インストーラをオーバーライドします。

- ローカルの DVD または CD からブートし、テキストインストーラをコンソールセッションでブートするには、次のコマンドを入力します。

ok **boot cdrom - nowin**

nowin    テキストインストーラをコンソールセッションで実行することを指定します。このオプションは、デフォルトの GUI インストーラをオーバーライドします。

---

注 - Oracle Solaris 10 1/13 リリース以降では、Oracle Solaris を CD/DVD からインストールするときに、テキストインストーラでネットワークベースのインストールを選択できます。この拡張機能により、Oracle Solaris を CD/DVD からインストールするか、ネットワークファイルシステムからインストールするかを選択できます。

---

Oracle Solaris インストール GUI およびテキストインストーラの詳細については、[11 ページの「Oracle Solaris インストールプログラムの GUI またはテキストインストーラの要件」](#)を参照してください。

オペレーティングシステムが自己識別キーボードを見つけられない場合は、画面にキーボード配列の選択情報が表示されます。

注-PS/2 キーボードは自己識別型ではありません。インストール時にキー配列を選択するように求められます。

- 4 キーボード配列を一覧表示する画面が表示された場合は、必要なキーボード配列を選択し、**F2** キーを押して続行します。  
システムでデバイスとインタフェースが構成され、構成ファイルが検索されます。  
前の方の手順で GUI インストールを選択した場合は、次の 2 つの画面で GUI が機能しているかどうかを確認します。
- 5 前の手順で選択したインストールの種類を確認します。
  - テキストインストールを選択した場合は、言語を選択するよう要求されます。手順 6 に進みます。
  - GUI インストールを選択した場合は、確認画面が表示され、使用しているシステムでインストールが機能するかどうかを確認できます。
    - a. 最初に表示された確認画面で、**Return** キーを押します。

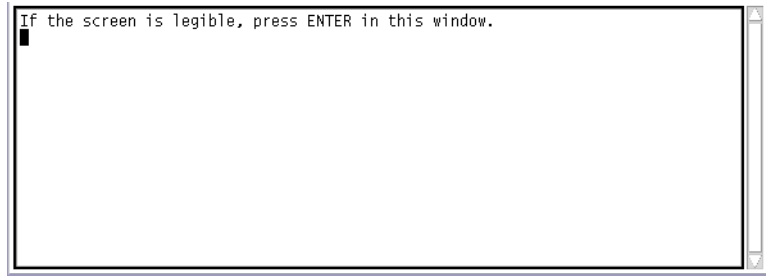
```
Starting Oracle Solaris Interactive (graphical user interface)
Installation
```

```
+-----+
| You must respond to the first question within 30 seconds |
| or the installer proceeds in a non-window environment   |
| (console mode).                                          |
|                                                          |
| If the screen becomes blank or unreadable the installer |
| proceeds in console mode.                               |
|                                                          |
| If the screen does not properly revert to console mode, |
| restart the installation and make the following selection: |
|                                                          |
|           Oracle Solaris Interactive Text (Console session)           |
+-----+
```

グラフィカルユーザーインタフェース (GUI) を表示するのに必要なメモリーがシステムに不足している場合は、プログラムが終了し、エラーメッセージが表示されます。次の 2 つの方法のいずれかで、この問題に対処できます。

- システムのメモリーをアップグレードし、インストールを再開します。
- インストールを再開し、GUI インストーラオプションではなくテキストインストーラオプションを選択します。

- b. 次に表示された確認画面で、画面内にカーソルを移動し、**Return** キーを押します。



- 6 表示される言語の選択肢リストで、インストール時に使用する言語を選択し、**Return** キーを押します。
- 7 プロンプトが表示されたら、システム構成情報を入力します。
- すべてのシステム情報が事前構成されている場合は、インストールプログラムは構成情報の入力を求めません。次の手順に進みます。  
詳細は、『[Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: ネットワークベースのインストール](#)』の第2章「システム構成情報の事前構成 (タスク)」を参照してください。
  - すべてのシステム情報が事前構成されている場合以外は、インストールプログラムのいくつかの画面で情報の入力が求められます。  
インストール用のチェックリストを参照して、構成の質問に答えてください。
    - a. デフォルトの **NFSv4** ドメイン名を選択するか、必要に応じてカスタムの **NFSv4** ドメイン名を指定します。
    - b. リモートクライアントによるネットワークサービスの使用を有効にするかどうかを指定します。
      - ネットワークサービスを有効にするには、デフォルトの回答 (「**Yes, I would like to enable network services for use by remote clients**」) を選択します。
      - 「いいえ」を選択すると、より高いセキュリティーで保護された構成となり、リモートクライアントに提供されるネットワークサービスは **Secure Shell** だけになります。  
必要に応じて、`net services open` コマンドを使用するか、`SMF` コマンドを使用して個別にサービスを有効にする方法で、インストール後にネットワークサービスを有効にできます。『[Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド](#)』

[イド: インストールとアップグレードの計画](#)』の「インストール後のセキュリティ設定の修正」を参照してください。

これらのオプションについての詳細は、『[Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: インストールとアップグレードの計画](#)』の「ネットワークセキュリティの計画」を参照してください。

- 8 構成の質問に答え終わると、「ようこそ」画面が表示されます。「次へ」をクリックします。  
「インストーラ・オプション (Installer Questions)」画面が表示されます。
- 9 システムのリブートとディスクの取り出しを自動的に行うかどうかを指定します。「次へ」をクリックします。  
重要: インストール後に自動登録を無効にする場合は、自動リブートの選択を解除してください。  
「媒体の指定 (Specify Media)」画面が表示されます。
- 10 インストールに使用するメディアを指定します。「次へ」をクリックします。  
ライセンスパネルが表示されます。
- 11 インストールを続行する場合は、ライセンス条項に同意します。「次へ」をクリックします。  
その後、システムがアップグレード可能かどうか判定されます。システムをアップグレードするには、Oracle Solaris ルート (/) ファイルシステムがすでに存在している必要があります。Oracle Solaris インストールプログラムは、必要な条件を検出すると、アップグレードを行います。  
「「アップグレード」または「初期」インストールの選択」画面が表示されます。
- 12 初期インストールまたはアップグレードのいずれかを選択します。「次へ」をクリックします。  
次の画面では、デフォルトインストールまたはカスタムインストールを選択できます。
- 13 実行するインストールの種類を選択します。「次へ」をクリックします。
  - 全体ディストリビューションをインストールするには、「デフォルトインストール」を選択します。
  - 次のタスクを行うには、「カスタムインストール」を選択します。
    - 特定のソフトウェアグループをインストールする
    - 追加のソフトウェアをインストールする

- 特定のソフトウェアパッケージをインストールする
- 特定のロケールをインストールする
- ディスク配置をカスタマイズする

ソフトウェアグループの詳細については、[14 ページの「ソフトウェアグループごとの推奨ディスク容量」](#)を参照してください。

---

注-テキストインストーラでは、デフォルトインストールかカスタムインストールかの選択は表示されません。デフォルトインストールを実行するには、テキストインストーラに表示されるデフォルト値をそのまま使用します。カスタムインストールを実行するには、テキストインストーラの画面で値を編集します。

---

#### 14 プロンプトが表示されたら、自動登録情報を入力します。

- インストールまたはアップグレードの前に **sysidcfg** ファイルで **auto\_reg** キーワードを使用して自動登録設定を行った場合は、構成に関する質問にすべて答える一部としてその情報が求められることはありません。
- **sysidcfg** ファイルに **auto\_reg** キーワードを含めなかった場合は、構成に関する質問にすべて答える一部として自動登録に関する情報を指定するように求められます。

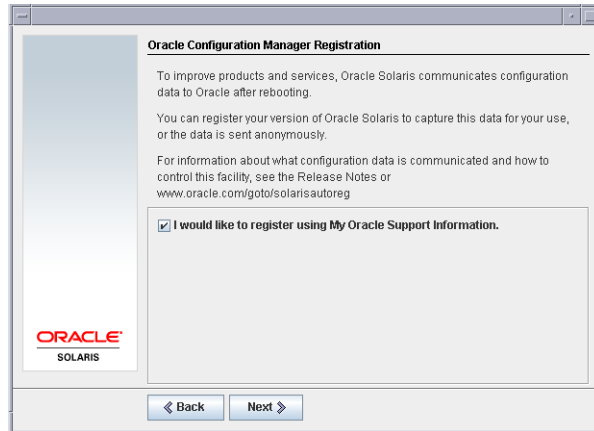
---

注-インストールまたはアップグレードの最後に自動登録を無効にする場合は、何も情報を入力せずにこれらの自動登録画面を進めることができます。

---

- a. サポート資格情報を使って登録する場合はオプションを選択し、匿名でデータを送信する場合はオプションの選択を解除します。

次の図は、GUI バージョンの自動登録画面を示しています。テストインストーラバージョンでも同じテキストが表示されます。「次へ」をクリックして続行します。



テキストインストーラ画面では、オプションボックスに移動するときは、矢印キーを使用します。オプションボックスに印を付けて、サポート資格情報を使って登録するときは、Return キーを押します。続けるときは、Esc-2 キーを押します。



**b. 要求されたプロキシ情報と資格情報を指定します。**

次の図は、GUI バージョンの自動登録のデータ入力画面を示しています。テキストインストーラバージョンでも同じオプションが表示されます。

**Oracle Configuration Manager Registration**

To register, complete the following fields:

- Confirm your existing My Oracle Support Information.
- If using a proxy server, provide the proxy settings.

Provide your email address to be informed of security issues, install and initiate Oracle Configuration Manager. Easier for you if you use your My Oracle Support Email Address/User Name.

For information about what configuration data is communicated and how to control this facility, see the Release Notes or [www.oracle.com/goto/solarisautoreg](http://www.oracle.com/goto/solarisautoreg)

Provide your My Oracle Support password to receive security updates via your My Oracle Support account.

**User Name/Email:**

**My Oracle Support Password:**

**Proxy Server Host Name:**

**Proxy Server Port Number:**

**HTTP Proxy User Name:**

**HTTP Proxy Password:**

◀ Back   Next ▶

サポート情報を使用して登録することを選択した場合は、My Oracle Support のユーザー名とパスワードを指定するように求められます。プロキシサーバーを使用する場合は、サーバーのホスト名とポート番号、およびプロキシのユーザー名とパスワードを指定できます。

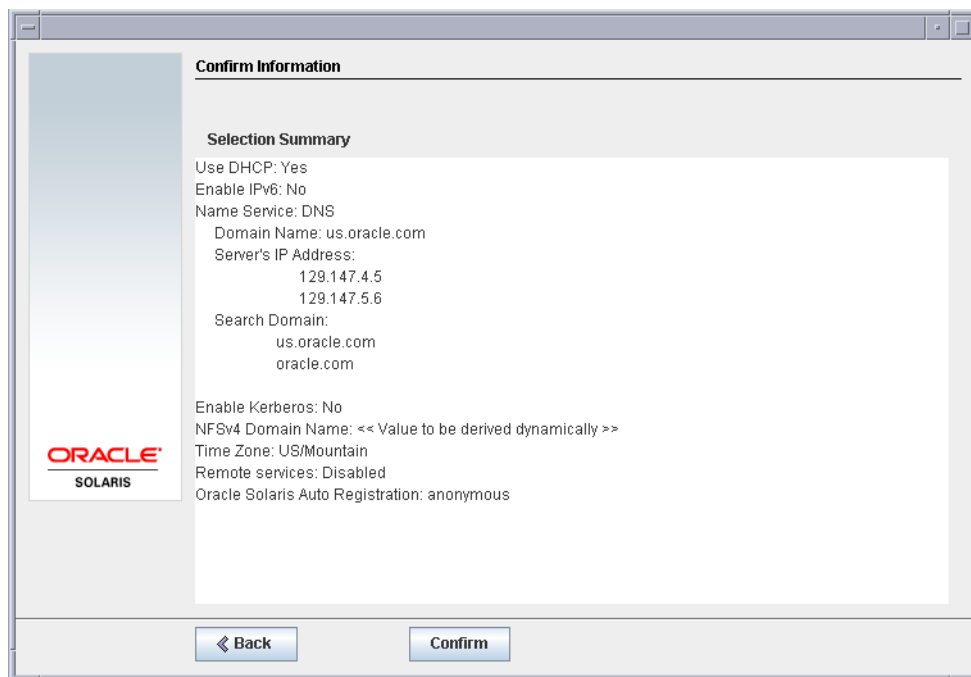
匿名で登録することを選択した場合は、この画面ではプロキシ情報だけが求められます。

テキストインストーラバージョンの場合、行間を移動するときは、矢印キーを使用します。サポート資格情報とプロキシエントリ (オプション) を入力します。続けるときは、Esc—2 キーを押します。

「インストールの準備完了」画面が表示されます。

15 「インストールの準備完了」画面を確認します。

次の図は、GUI 画面を示しています。テキストインストール画面にも、同じサマリー情報が含まれています。



16 「インストール開始」をクリックし、指示に従って **Oracle Solaris** ソフトウェアをインストールします。

インストールプログラムによる Oracle Solaris ソフトウェアのインストールが終了すると、システムは自動的にリブートするか、または手動でリブートするように促します。

追加の製品をインストールする場合は、その製品の DVD または CD を挿入するように指示が表示されます。インストール手順については、該当するインストールドキュメントを参照してください。

インストールが終了すると、インストールログがファイルに保存されます。インストールログは、`/var/sadm/system/logs` ディレクトリと `/var/sadm/install/logs` ディレクトリに作成されます。

- 初期インストールの場合は、これでインストールが完了します。

- **Oracle Solaris** ソフトウェアのアップグレードを行なっている場合は、保持されなかったローカルな変更があればそれを修正する必要があります。
  - a. **/a/var/sadm/system/data/upgrade\_cleanup** ファイルの内容を確認して、**Oracle Solaris** インストールプログラムによって保持されなかったローカルな変更を修正する必要があるかどうかを判断します。
  - b. 保持されなかったローカルな変更があれば、修正します。
- 17 前に自動リブートの選択を解除した場合は、次の2つのオプションのいずれかを選択します。
- 自動登録を無効にしない場合は、インストールメディアを取り出してから、次に示すように、手動でシステムをリブートします。  
**# reboot**
  - 自動登録を無効にして、リブート時に構成データをオラクルに送信しない場合は、手動でシステムをリブートする前に、次の手順を実行します。
    - a. 次のように端末ウィンドウを開きます。
      - **GUI** インストールの場合は、右クリックします。
      - **テキストインストール**の場合は、「!」を押します。
    - b. コマンド行で、**/a/var/tmp/autoreg\_config** ファイルを削除します。  
**# rm /a/var/tmp/autoreg\_config**
    - c. ファイルを保存します。
    - d. インストールメディアを取り出して、手動でシステムをリブートします。  
**# reboot**

---

注 - インストール後、Oracle Configuration Manager (OCM) がデフォルトで有効になります。OCM サービスは、次のコマンドを使用して無効にできます。

```
svcadm disable ocm
```

---

## x86: Oracle Solaris インストールプログラムによる UFS ファイルシステム用のインストールまたはアップグレードの実行

Oracle Solaris インストールプログラムを使用すると、x86 システムで Oracle Solaris OS のインストールまたはアップグレードを行うことができます。このセクションでは、Oracle Solaris OS のインストールに必要なタスクの一覧を示し、DVD または CD メディアから Oracle Solaris OS をインストールする方法についての詳しい手順を説明します。

### ▼ x86: GRUB 付き Oracle Solaris インストールプログラムを使用してインストールまたはアップグレードを行う方法

x86 システム用の Oracle Solaris インストールプログラムでは、GRUB ブートローダーが使用されます。この手順では、スタンドアロンの GRUB ブートローダー付き x86 システムを CD または DVD メディアから UFS ファイルシステム用にインストールする方法について説明します。GRUB ブートローダーの概要については、『[Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: インストールとアップグレードの計画](#)』の第 6 章「SPARC および x86 ベースのブート (概要と計画)」を参照してください。

---

注 - DVD-ROM または CD-ROM ドライブが直接接続されていないマシンやドメインに Oracle Solaris OS をインストールする場合は、別のマシンに接続されている DVD-ROM または CD-ROM ドライブを使用できます。手順の詳細は、『[Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: ネットワークベースのインストール](#)』の付録 B「リモートからのインストールまたはアップグレード (タスク)」を参照してください。

---

インストールまたはアップグレードを準備する方法の詳細については、[32 ページ](#)の「インストールまたはアップグレードを準備する方法」を参照してください。

#### 1 適切なメディアをシステムに挿入します。

Oracle Solaris Operating System DVD または Oracle Solaris SOFTWARE - 1 CD からブートする場合は、そのディスクを挿入します。この場合、システムの BIOS が DVD または CD からのブートをサポートしている必要があります。

注 - Oracle Solaris 10 1/13 リリース以降では、Oracle Solaris を CD/DVD からインストールするときに、テキストインストーラでネットワークベースのインストールを選択できます。この拡張機能により、Oracle Solaris を CD/DVD からインストールするか、ネットワークファイルシステムからインストールするかを選択できます。

DVD または CD からブートするように BIOS を手動で設定する必要があることもあります。BIOS の設定方法については、ハードウェアのドキュメントを参照してください。

- 2 システムをシャットダウンして電源を切り、再び電源を入れてシステムをブートします。
- 3 CD または DVD からブートするように BIOS を手動で設定する必要がある場合は、システムのブート処理を中断する適切なキーシーケンスを入力します。

BIOS でブート優先順位を変更し、BIOS を終了してインストールプログラムに戻ります。

メモリーテストとハードウェア検出が実行されます。画面がリフレッシュされます。GRUB メニューが表示されます。

```
GNU GRUB version 0.95 (631K lower / 2095488K upper memory)
+-----+
| Oracle Solaris                               |
| Oracle Solaris Serial Console ttya          |
| Oracle Solaris Serial Console ttyb (for lx50, v60x and v65x) |
|                                              |
+-----+
Use the ^ and v keys to select which entry is highlighted.
Press enter to boot the selected OS, 'e' to edit the
commands before booting, or 'c' for a command-line.
```

- 4 適切なインストールオプションを選択します。
  - 現在のシステムに CD または DVD から Oracle Solaris OS をインストールする場合は、「Oracle Solaris」を選択して Enter キーを押します。  
デフォルト値を使用してシステムをインストールする場合は、このオプションを選択します。
  - Oracle Solaris OS をインストールし、画面出力をシリアルポート COM1 に接続されたデバイスに送信する場合は、「Oracle Solaris Serial Console ttya」を選択します。
  - Oracle Solaris OS をインストールし、画面出力をシリアルポート COM2 に接続されたデバイスに送信する場合は、「Oracle Solaris Serial Console ttyb」を選択します。

- 特定のブート引数で **Oracle Solaris OS** をインストールしてインストール時にシステム構成をカスタマイズする場合は、次の手順に従います。

- a. **GRUB** メニューで、編集するインストールオプションを選択してから、**e** キーを押します。

GRUB メニューに、次のようなブートコマンドが表示されます。

```
kernel /boot/multiboot kernel/unix -B install_media=cdrrom
module /boot/x86.miniroot
```

- b. 矢印キーを使用して編集するブートエントリを選択してから、**e** キーを押します。

編集するブートコマンドが、GRUB 編集ウィンドウに表示されます。

- c. 使用するブート引数またはオプションを入力して、ブートコマンドを編集します。

GRUB 編集メニューでは、次のコマンド構文を使用します。

```
grub edit>kernel /boot/multiboot kernel/unix/ \
install [url|ask] -B options install_media=media_type
```

```
grub edit>kernel$ /boot/platform/i86pc/$ISADIR/kernel/unix/ \
install [url|ask] -B options install_media=media_type
```

ブート引数およびコマンド構文については、『[Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: ネットワークベースのインストール](#)』の第9章「ネットワークからのインストール(コマンドリファレンス)」を参照してください。

- d. 編集した内容を保存して **GRUB** メニューに戻るには、**Enter** キーを押します。  
GRUB メニューが表示されます。ブートコマンドに行なった編集が表示されます。

編集した内容を保存せずに GRUB メニューに戻るには、**Escape** キーを押します。

- e. インストールを開始するには、**GRUB** メニューに **b** と入力します。

デフォルトのブートディスクが、システムのインストールまたはアップグレードに必要な条件を満たしているかどうかを検査されます。Oracle Solaris インストールがシステム構成を検出できない場合は、不足している情報の入力を求めるプロンプトが表示されます。

検査が完了すると、インストールの選択画面が表示されます。

```
Select the type of installation you want to perform:
```

```
1 Oracle Solaris Interactive
2 Custom JumpStart
3 Oracle Solaris Interactive Text (Desktop session)
4 Oracle Solaris Interactive Text (Console session)
```

```
(Select option 3 or 4 to install a ZFS root file system)
5 Apply driver updates
6 Single user shell
```

Enter the number of your choice.

- 5 (省略可能) ドライバを更新するか、インストール時更新 (ITU) をインストールする必要がある場合は、更新するためのメディアを挿入して **5** を入力し、**Enter** キーを押します。

使用しているシステムで Oracle Solaris OS を実行できるようにするために、ドライバの更新または ITU のインストールが必要になる場合があります。ドライバの更新または ITU のインストールを行う手順に従ってください。

- 6 (省略可能) システム管理タスクを実行する必要がある場合は、**6** を入力してから、**Enter** キーを押します。

インストールする前にシステム管理タスクを実行する必要がある場合には、シングルユーザーシェルを起動します。インストールする前に実行できるシステム管理タスクについては、『[Oracle Solaris の管理: 基本管理](#)』を参照してください。

- 7 インストールの種類を選択します。

- Oracle Solaris の対話式インストール GUI を使ってインストールするには、**1** と入力してから **Enter** キーを押します。

- 自動的なカスタム JumpStart インストールを実行するには、**2** と入力してから **Enter** キーを押します。

JumpStart インストールについては、『[Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: JumpStart インストール](#)』を参照してください。

- デスクトップセッションで対話式テキストインストーラを使ってインストールするには、**3** と入力してから **Enter** キーを押します。プロンプトに **b - text** と入力することもできます。

このインストールの種類を選択すると、デフォルトの GUI インストーラをオーバーライドしてテキストインストーラを実行します。

Oracle Solaris インストール GUI およびテキストインストーラの詳細は、[9 ページ](#) の「[システム要件と推奨事項](#)」を参照してください。

- コンソールセッションで対話式テキストインストーラを使ってインストールするには、**4** と入力してから **Enter** キーを押します。プロンプトで **b - nowin** と入力することもできます。

このインストールの種類を選択すると、デフォルトの GUI インストーラをオーバーライドしてテキストインストーラを実行します。

システムでデバイスとインタフェースが構成され、構成ファイルが検索されます。オペレーティングシステムが自己識別キーボードを見つけられない場合は、画面にキーボード配列の選択情報が表示されます。システムが自己識別キーボードを見つけた場合は、[手順 11](#)に進んでください。

- 8 キーボード配列を一覧表示する画面が表示された場合は、必要なキーボード配列を選択し、**F2** キーを押して続行します。

システムでデバイスとインタフェースが構成され、構成ファイルが検索されます。

前の方の手順で GUI インストールを選択した場合は、次の 2 つの画面で GUI が機能しているかどうかを確認します。

- 9 (省略可能) 次の画面で、**Enter** キーを押します。

```
Starting Oracle Solaris Interactive (graphical user interface)
Installation
```

```
+-----+
| You must respond to the first question within 30 seconds |
| or the installer proceeds in a non-window environment   |
| (console mode).                                          |
|                                                         |
| If the screen becomes blank or unreadable the installer |
| For a GUI install, right-click. | proceeds in console mode. |
|                                                         |
| If the screen does not properly revert to console mode, |
| restart the installation and make the following selection: |
|                                                         |
|      Oracle  Solaris Interactive Text (Console session) |
+-----+
```

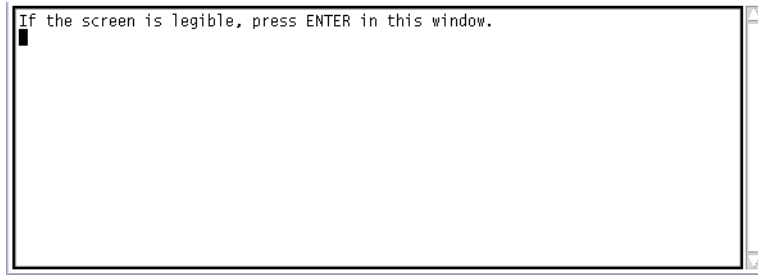
注-システムに十分なメモリーがない場合は、プログラムが終了し、エラーメッセージが表示されます。メモリーをアップグレードして、インストールを再開できます。

インストールに必要なメモリーが不足している場合、別の方法として、インストールを再開し、GUI インストーラオプションではなくテキストインストーラオプションを選択します。

進捗メッセージが完了すると、別の確認画面が表示されます。



- 10 (省略可能) 次のテキスト画面内にカーソルを移動して、**Enter** キーを押します。



言語の選択肢の一覧が表示されます。

- 11 インストール時に使用する言語を選択し、**Enter** キーを押します。
- 12 構成に関する残りの質問が表示される場合は、それらに答えます。
- すべてのシステム情報が事前構成されている場合は、構成情報の入力は求められません。詳細は、『[Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: ネットワークベースのインストール](#)』の第2章「システム構成情報の事前構成(タスク)」を参照してください。
  - すべてのシステム情報が事前構成されている場合以外は、インストールプログラムのいくつかの画面で情報の入力が求められます。16 ページの「インストール用のチェックリスト」を参照して、構成の質問に答えてください。
  - 構成の質問の1つで、リモートクライアントによるネットワークサービスの使用を有効にするかどうかを尋ねられます。デフォルトの回答は「はい、ネットワークサービスを有効にして、リモートクライアントで使えるようにします。」です。

「いいえ」を選択すると、より高いセキュリティーで保護された構成となり、リモートクライアントに提供されるネットワークサービスは Secure Shell だけになります。「はい」を選択すると、Oracle Solaris の以前のリリースと同様に、より多くのサービスが有効になります。インストール後に任意のサービスを有効にできるため、「いいえ」を選択しても問題ありません。これらのオプションについての詳細は、『[Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: インストールとアップグレードの計画](#)』の「ネットワークセキュリティーの計画」を参照してください。

ネットワークサービスは、`netservices open` コマンドを使用するか、SMF コマンドを使用して個別にサービスを有効にする方法で、インストール後に有効にすることができます。『[Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: インストールとアップグレードの計画](#)』の「インストール後のセキュリティー設定の修正」を参照してください。

構成の質問に答え終わると、「ようこそ」画面が表示されます。

- 13 「ようこそ」画面の「次へ (Next)」をクリックします。  
「インストーラ・オプション (Installer Questions)」画面が表示されます。
- 14 システムのリブートとディスクの取り出しを自動的に行うかどうかを指定します。「次へ」をクリックします。  
重要: インストール後に自動登録を無効にする場合は、自動リブートの選択を解除してください。  
「媒体の指定 (Specify Media)」画面が表示されます。
- 15 インストールに使用するメディアを指定します。「次へ」をクリックします。  
ライセンス画面が表示されます。
- 16 インストールを続行する場合は、ライセンス条項に同意します。「次へ」をクリックします。  
その後、システムがアップグレード可能かどうか判定されます。システムをアップグレードするには、Oracle Solaris ルート (/) ファイルシステムがすでに存在している必要があります。Oracle Solaris インストールプログラムは、必要な条件を検出すると、アップグレードを行います。  
「「アップグレード」または「初期」インストールの選択」画面が表示されます。
- 17 初期インストールまたはアップグレードのいずれかを選択します。「次へ」をクリックします。

---

注- インストールを開始する前に診断・サービスパーティションをシステムに復元すると、Oracle Solaris OS にアップグレードできなくなることがあります。詳細は、『[Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: Live Upgrade とアップグレードの計画](#)』の「既存のサービスパーティションが存在しないシステムでは、デフォルトでサービスパーティションが作成されない」を参照してください。

---

次の画面では、デフォルトインストールまたはカスタムインストールを選択できます。

- 18 実行するインストールの種類を選択します。「次へ」をクリックします。
  - 全体ディストリビューションをインストールするには、「デフォルトインストール」を選択します。
  - 次のタスクを行うには、「カスタムインストール」を選択します。
    - 特定のソフトウェアグループをインストールする
    - 追加のソフトウェアをインストールする
    - 特定のソフトウェアパッケージをインストールする

- 特定のロケールをインストールする
- ディスク配置をカスタマイズする

ソフトウェアグループの詳細については、[14 ページの「ソフトウェアグループごとの推奨ディスク容量」](#)を参照してください。fdisk パーティションのカスタマイズについては、『[Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: インストールとアップグレードの計画](#)』の「パーティション分割に関する推奨事項」を参照してください。

---

注-テキストインストーラでは、デフォルトインストールかカスタムインストールかの選択は表示されません。デフォルトインストールを実行するには、テキストインストーラに表示されるデフォルト値をそのまま使用します。カスタムインストールを実行するには、テキストインストーラの画面で値を編集します。

---

**19** プロンプトが表示されたら、自動登録情報を入力します。

インストールまたはアップグレードの前に `sysidcfg` ファイルで `auto_reg` キーワードを使用して自動登録設定を行った場合は、構成に関する質問にすべて答える一部としてその情報が求められることはありません。

- `sysidcfg` ファイルに `auto_reg` キーワードを含めなかった場合は、構成に関する質問にすべて答える一部として自動登録に関する情報を指定するように求められます。

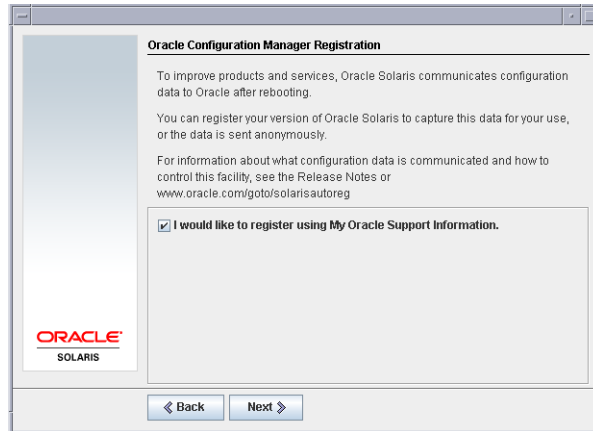
---

注-インストールまたはアップグレードの最後に自動登録を無効にする場合は、何も情報を入力せずにこれらの自動登録画面を進めることができます。

---

- a. サポート資格情報を使って登録する場合はオプションを選択し、匿名でデータを送信する場合はオプションの選択を解除します。「次へ」をクリックして続行します。

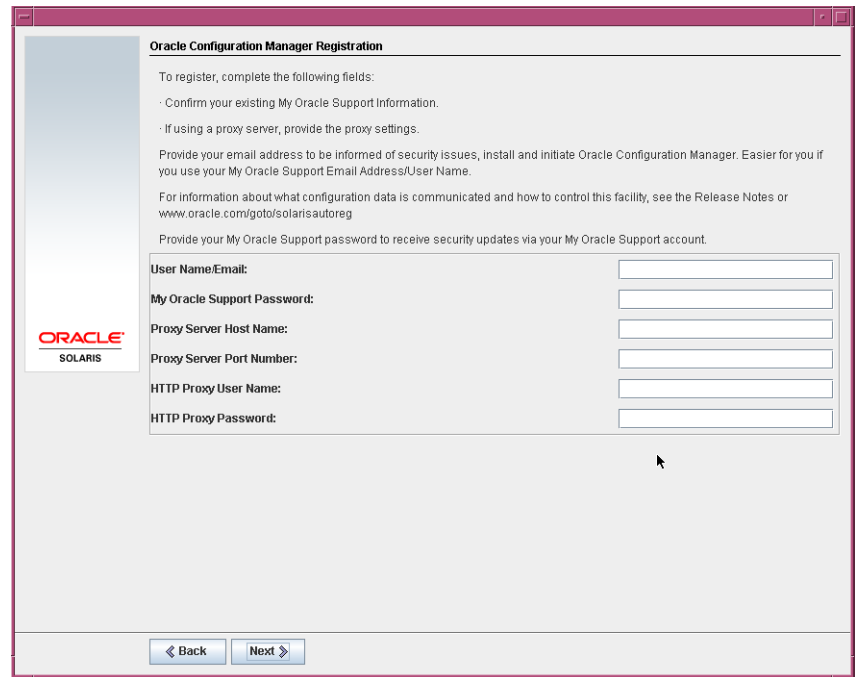
次の図は、GUI バージョンの自動登録画面を示しています。テキストインストーラバージョンでも同じテキストが表示されます。



テキストインストーラ画面では、オプションボックスに移動するときは、矢印キーを使用します。オプションボックスに印を付けて、サポート資格情報を使って登録するときは、Return キーを押します。続けるときは、Esc-2 キーを押します。

b. 要求されたプロキシ情報と資格情報を指定します。

次の図は、GUI バージョンの自動登録のデータ入力画面を示しています。テキストインストーラバージョンでも同じオプションが表示されます。



The image shows a window titled "Oracle Configuration Manager Registration". Inside, there is instructional text: "To register, complete the following fields:", "Confirm your existing My Oracle Support Information.", "If using a proxy server, provide the proxy settings.", "Provide your email address to be informed of security issues, install and initiate Oracle Configuration Manager. Easier for you if you use your My Oracle Support Email Address/User Name.", "For information about what configuration data is communicated and how to control this facility, see the Release Notes or www.oracle.com/goto/solarisautoreg", and "Provide your My Oracle Support password to receive security updates via your My Oracle Support account." Below the text are input fields for "User Name/Email:", "My Oracle Support Password:", "Proxy Server Host Name:", "Proxy Server Port Number:", "HTTP Proxy User Name:", and "HTTP Proxy Password:". The Oracle Solaris logo is on the left. At the bottom are "Back" and "Next" buttons.

サポート情報を使用して登録することを選択した場合は、My Oracle Support のユーザー名とパスワードを指定するように求められます。プロキシサーバーを使用する場合は、サーバーのホスト名とポート番号、およびプロキシのユーザー名とパスワードを指定できます。

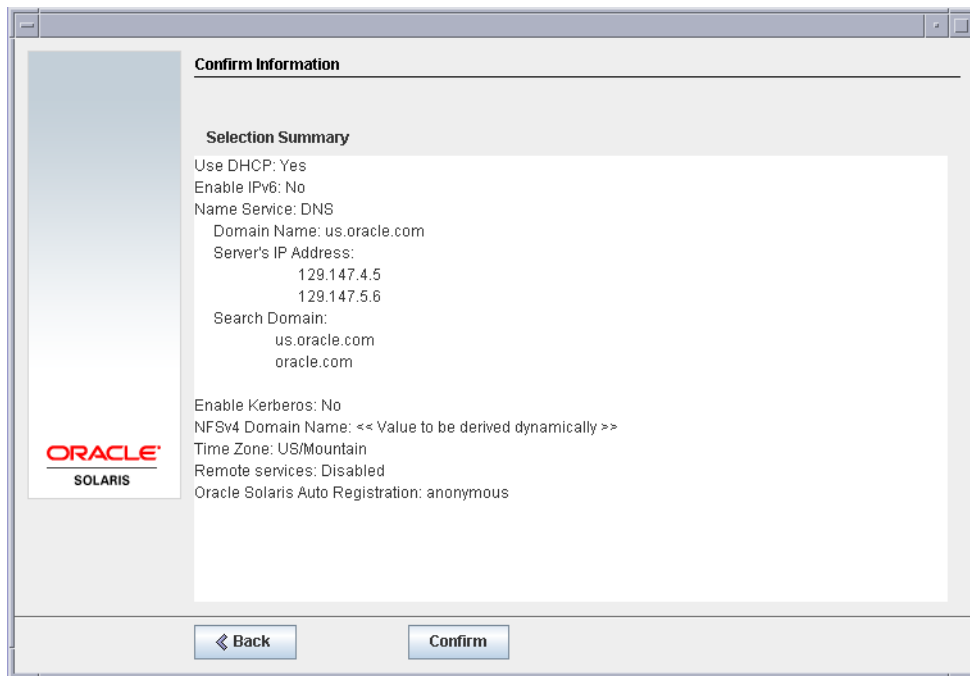
匿名で登録することを選択した場合は、この画面ではプロキシ情報だけが求められます。

行間を移動するときは、矢印キーを使用します。サポート資格情報とプロキシエントリ (オプション) を入力します。続けるときは、Esc-2 キーを押します。

「インストールの準備完了」画面が表示されます。

20 「インストールの準備完了」画面を確認します。

次の図は、GUI 画面を示しています。テキストバージョンのこの画面にも、同じ情報が含まれています。



21 「インストール開始」をクリックし、指示に従って **Oracle Solaris** ソフトウェアをインストールします。

インストールプログラムによる Oracle Solaris ソフトウェアのインストールが終了すると、システムは自動的にリブートするか、または手動でリブートするように促します。

インストールが終了すると、インストールログがファイルに保存されます。インストールログは、`/var/sadm/system/logs` ディレクトリと `/var/sadm/install/logs` ディレクトリに作成されます。

- 初期インストールの場合は、これでインストールが完了します。自動リブートの選択を解除した場合は、続けて[手順 22](#)に進みます。

- Oracle Solaris ソフトウェアのアップグレードを行なっている場合は、保持されなかったローカルな変更があればそれを修正する必要があります。
- a. `/a/var/sadm/system/data/upgrade_cleanup` ファイルの内容を確認して、Oracle Solaris インストールプログラムによって保持されなかったローカルな変更を修正する必要があるかどうかを判断します。
- b. 保持されなかったローカルな変更があれば、修正します。

**22** 前に自動リブートの選択を解除した場合は、次の2つのオプションのいずれかを選択します。

- 自動登録を無効にしない場合は、インストールメディアを取り出してから、次に示すように、手動でシステムをリブートします。

# **reboot**

- 自動登録を無効にして、リブート時に構成データをオラクルに送信しない場合は、手動でシステムをリブートする前に、次の手順を実行します。



注意-システムが自動的にリブートする場合は、次の手順に従って自動登録を無効にすることはできません。代わりに、自動リブート後に、Oracle Configuration Manager (OCM) を使用して自動登録を無効にできます。『Oracle Solaris の管理: 基本管理』の第 17 章「Oracle Configuration Manager の操作」を参照してください

a. 次のように端末ウィンドウを開きます。

- GUI インストールの場合は、右クリックします。
- テキストインストールの場合は、「!」を押します。

b. コマンド行で、`/a/var/tmp/autoreg_config` ファイルを削除します。

# **rm /a/var/tmp/autoreg\_config**

c. ファイルを保存します。

d. インストールメディアを取り出して、手動でシステムをリブートします。

# **reboot**

システムをリブートすると、GRUB メニューに、新しくインストールした Oracle Solaris OS などのインストールされているオペレーティングシステムの一覧が表示されます。

- e. ブートするオペレーティングシステムを選択します。  
新たに選択を行わなかった場合は、デフォルトの選択が読み込まれます。

#### 参考 次の手順

使用するマシンに複数のオペレーティングシステムをインストールする場合、ブートするためには、それらのオペレーティングシステムを GRUB ブートローダーに認識させる必要があります。詳細は、『[Oracle Solaris の管理: 基本管理](#)』の「ブート時に GRUB メニューを編集してブート動作を変更する」を参照してください。



# Oracle Solaris 対話式テキストインストーラによる ZFS ルートプール用のインストール(計画とタスク)

---

この章では、Oracle Solaris Operating System DVD または Oracle Solaris SOFTWARE - 1 CD に入っている Oracle Solaris 対話式インストールプログラムを使用して、ZFS ルートプールの初期インストールを実行する方法について説明します。

この章の内容は、次のとおりです。

- 57 ページの「ZFS ルートプールのインストール(計画)」
- 58 ページの「Oracle Solaris 対話式テキストインストーラによる ZFS 用の初期インストールの実行」

## ZFS ルートプールのインストール(計画)

Oracle Solaris 対話式テキストインストーラを使用して初期インストールを実行し、ブート可能な ZFS ルートプールを含む ZFS ストレージプールを作成できます。標準の GUI インストールプログラムを使用して ZFS ルートプールをインストールすることはできません。

Solaris 対話式テキストインストール処理は、Oracle Solaris の以前のリリースと同様です。UFS ルート (/) ファイルシステムと ZFS ルートプールのどちらをインストールするかを選択できる点が異なります。このリリースでも、デフォルトのファイルシステムは UFS です。ZFS ストレージプールを作成してインストールするには、ZFS オプションを選択する必要があります。

システム上に ZFS ストレージプールがすでに存在する場合、それらは既存のプールのディスクを選択して新しいストレージプールを作成する場合以外は変更されません。既存の ZFS ストレージプールを ZFS ルートファイルシステムとして使用するには、Oracle Solaris の機能である Live Upgrade を使用して、既存の UFS ルート (/) ファイルシステムを ZFS ルートプールに移行する必要があります。Live Upgrade には、ZFS ルートプールをアップグレードする手段も用意されています。詳細は、『Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: Live Upgrade とアップグレードの計画』の第 10 章「Live Upgrade と ZFS (概要)」を参照してください。

初期インストールを開始して ZFS ストレージプールを作成する前に、『[Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: インストールとアップグレードの計画](#)』の第 5 章「[ZFS ルートファイルシステムのインストール計画](#)」を参照してください。

---

注 - SPARC および x86 のどちらのシステムでも、ZFS ルートファイルシステムのインストールには少なくとも 1.5G バイト以上のメモリーが必要です。

---

## Oracle Solaris 対話式テキストインストーラによる ZFS 用の初期インストールの実行

この手順では、スタンドアロンの SPARC システムを CD または DVD メディアからインストールする方法について説明します。

### ▼ SPARC: ZFS ルートプールをインストールする方法

始める前に DVD-ROM または CD-ROM ドライブが直接接続されていないマシンまたはドメインに Oracle Solaris OS をインストールする場合は、ほかのマシンに接続されているドライブを使用できます。手順の詳細は、『[Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: ネットワークベースのインストール](#)』の付録 B「[リモートからのインストールまたはアップグレード\(タスク\)](#)」を参照してください。

必要なメディアを用意してください。

- DVD でインストールする場合は、Oracle Solaris Operating System DVD (SPARC 版) が必要です。
- CD インストールの場合は、次のメディアが必要です。
  - Oracle Solaris ソフトウェア CD。
  - Oracle Solaris Languages CD (SPARC 版) - 特定の地域の言語をサポートする必要がある場合は、インストールプログラムによってこれらの CD を求めるプロンプトが表示されます。

---

注 - **Oracle Solaris 10 8/11** 以降のリリースでは、DVD のみが提供されます。Oracle Solaris ソフトウェア CD は提供されません。

---

既存のデータやアプリケーションを保持するには、システムのバックアップをとります。ZFS ルートプールのバックアップについては、『[Oracle Solaris ZFS 管理ガイド](#)』の「[ZFS ルートプールまたはルートプールのスナップショットを回復する](#)」を参照してください。

- 1 Oracle Solaris Operating System DVD (SPARC 版) または Oracle Solaris SOFTWARE - 1 CD (SPARC 版) を挿入します。

- 2 システムをブートします。

- 新しく購入したばかりのシステムの場合は、システムの電源を入れます。
- 稼働中のシステムのインストールを行う場合は、システムをシャットダウンします。

ok プロンプトが表示されます。

- 3 ローカルの DVD または CD からブートし、Oracle Solaris 対話式テキストインストーラを起動するには、次のコマンドを入力します。

ok **boot cdrom - text**

text テキストインストーラをデスクトップセッションで実行することを指定します。このオプションは、デフォルトの GUI インストーラをオーバーライドします。

インストール GUI を実行して ZFS ルートプールをインストールすることはできません。オペレーティングシステムが自己識別キーボードを見つけられない場合は、画面にキーボード配列の選択情報が表示されます。

---

注-PS/2 キーボードは自己識別型ではありません。インストール時にキー配列を選択するように求められます。

---

- 4 キーボード配列を一覧表示する画面が表示された場合は、必要なキーボード配列を次の画面から選択し、F2 キーを押して続行します。

システムでデバイスとインタフェースが構成され、構成ファイルが検索されます。言語の選択肢の一覧が表示される場合があります。この画面が表示されない場合は、[手順6](#)に進んでください。

- 5 言語の選択を求める画面が表示された場合は、インストール時に使用する言語を選択し、F2 キーを押します。

Select a Language

```
+-----+
| Please specify the the language from the list below. |
| |
| To make a selection, use the arrow keys to highlight the option and |
| press Return to mark it [X]. |
| |
| [ ] English |
| [ ] French |
| [ ] German |
| [ ] Italian |
| [ ] Japanese |
+-----+
```

```

|         [ ] Korean                               |
|         [ ] Simplified Chinese                   |
|         [ ] Spanish                             |
|         [ ] Swedish                             |
|         [ ] Traditional Chinese                 |
|         [ ] UK-English                         |
|
|         F2_Continue      F6_Help
+-----+

```

6 F2 キーを押して表示します。

Oracle Solaris のインストール画面が表示されます。

7 プロンプトが表示されたら、システム構成情報を入力します。

- すべてのシステム情報が事前構成されている場合は、構成情報の入力はありません。

詳細は、『[Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: ネットワークベースのインストール](#)』の第2章「システム構成情報の事前構成(タスク)」を参照してください。

- すべてのシステム情報が事前構成されている場合以外は、インストールプログラムのいくつかの画面で情報の入力が必要です。

16 ページの「インストール用のチェックリスト」を参照して、構成の質問に答えてください。

8 プロンプトが表示されたら、リモートクライアントによるネットワークサービスの使用を有効にするかどうかを指定します。

- ネットワークサービスを有効にするには、デフォルトの回答(「**Yes, I would like to enable network services for use by remote clients**」)を選択します。
- 「いいえ」を選択すると、より高いセキュリティーで保護された構成となり、リモートクライアントに提供されるネットワークサービスは **Secure Shell** だけになります。

必要に応じて、`netservices open` コマンドを使用するか、SMF コマンドを使用して個別にサービスを有効にする方法で、インストール後にネットワークサービスを有効にできます。『[Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: インストールとアップグレードの計画](#)』の「インストール後のセキュリティー設定の修正」を参照してください。

構成の質問に答え、ルートパスワードを設定すると、Oracle Solaris の対話式インストール画面が表示されます。

```

Oracle Solaris Interactive Installation
+-----+
|On the following screens, you can accept the defaults or you can customize |

```

```

| how Solaris software will be installed by:
|
| - Selecting the type of Solaris software to install
| - Selecting disks to hold the software you've selected
| - Selecting unbundled products to be installed with Solaris
| - Specifying how file systems are laid out on the disks
|
| After completing these tasks, a summary of your selections
| (called a profile) will be displayed.
|
| There are two ways to install your Solaris software:
|
| - 'Standard' installs your system from a standard Oracle Solaris
|   Distribution. Selecting 'standard' allows you to choose between
|   initial install and upgrade, if your system is upgradeable.
|
| - 'Flash' installs your system from one or more Flash Archives.
|
| F2_Standard    F4_Flash    F5_Exit    F6_Help
+-----+

```

これらのオプションについての詳細は、『[Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: インストールとアップグレードの計画](#)』の「ネットワークセキュリティーの計画」を参照してください。

## 9 インストール方法を選択します。

- **ZFS フラッシュアーカイブをインストールするには、F4 キーを押します。**  
ZFS フラッシュアーカイブをインストールするステップごとの手順については、『[Oracle Solaris ZFS 管理ガイド](#)』を参照してください。
- **ZFS ルートファイルシステムの初期インストールを実行するには、F2 キーを押します。**

## 10 システムのリブートとディスクの取り出しを自動的に行うかどうかを指定します。F2 キーを押します。

---

注-インストール後とリブート前の自動登録を無効にする場合は、自動リブートの選択を解除します。

---

システム上に ZFS ストレージプールがすでに存在する場合、それらは次のメッセージで認識されますが、既存のプールのディスクを選択して新しいストレージプールを作成する場合以外は変更されません。

```

There are existing ZFS pools available on this system.
However, they can only be upgraded using the Live Upgrade tools.
The following screens will only allow you to install a ZFS root system,
not upgrade one.

```

ZFS ストレージプールがシステム上にすでに存在するというメッセージが表示されたら、F2 キーを押して続行します。

ライセンス画面が表示されます。

- 11 インストールを続行する場合は、ライセンス条項に同意します。F2 キーを押します。

「アップグレード」または「初期」インストールの選択画面が表示される場合があります。アップグレード可能な UFS ファイルシステムがある場合は、この画面が表示されます。この画面が表示されない場合は、[手順 13](#)に進んでください。

- 12 ZFS のインストールを実行するには、F4 キーを押して初期インストールを行います。地域、ロケール、および追加の製品を選択する画面が表示されます。

- 13 地域、ロケール、および追加の製品を選択します。

「ファイルシステムの種類の選択」画面が表示されます。

- 14 ZFS ルートプールを作成するには、ZFS オプションを選択し、F2 キーを押します。

Choose a Filesystem Type

```
+-----+
| Select the filesystem to use for your Oracle Solaris installation |
|
|          [ ] UFS
|          [X] ZFS
|
| F2_Continue      F6_Help
+-----+
```

「ソフトウェアの選択」画面が表示されます。

- 15 実行するインストールの種類を選択します。F2 キーを押します。

デフォルトインストールを実行するには、表示されるデフォルト値をそのまま使用します。カスタムインストールを実行するには、テキストインストーラの画面で値を編集します。この例では、デフォルトの「全体ディストリビューション」のインストールが選択されています。

ソフトウェアグループの詳細については、[14 ページ](#)の「ソフトウェアグループごとの推奨ディスク容量」を参照してください。

Select Software

```
+-----+
| Select the Solaris software to install on the system |
|
| Note: After selecting a software group, you can add or remove |
| software by customizing it. However this requires understanding of |
| software dependencies and how Solaris software is packaged. |
|
| [ ] Entire Distribution plus OEM support .....8575.00 MB
| [X] Entire Distribution.....8529.00 MB
+-----+
```

```

| [ ] Developer System Support.....8336.00 MB |
| [ ] End User System Support.....7074.00 MB |
| [ ] Core System Support.....3093.00 MB |
| [ ] Reduced Networking Core System Support.....3035.00 MB |
|
| F2_Continue      F6_Help
+-----+

```

「ディスクの選択」画面が表示されます。

インストールするソフトウェアを選択したあと、ZFS ストレージプールを作成するためのディスクの選択を求めるプロンプトが表示されます。この画面は以前の Oracle Solaris リリースと同様ですが、次のテキストが異なります。

For ZFS, multiple disks will be configured as mirrors, so the disk you choose, or the slice within the disk must exceed the Suggested Minimum value.

## 16 ZFS ルートプールに使用するディスクとして、1つまたは複数を選択します。

次の情報に注意してください。

- 単一のディスクを選択した場合、あとでミラー化構成にするには、Managing Devices in ZFS Storage Pools [『Oracle Solaris ZFS 管理ガイド』の「ZFS ストレージプール内のデバイスを管理する」](#) コマンドを参照してください。
- 2つのディスクを選択すると、ルートプールには2ディスク構成が設定されます。2ディスクまたは3ディスクのミラー化プールが最適です。
- 8つのディスクがある場合に8つのディスクすべてを選択すると、ルートプールでは8つのディスクが単一の大規模なミラーとして使用されます。これは最適な構成ではありません。

ルートプールでは RAID-Z プール構成はサポートされていません。ZFS ストレージプールの構成方法の詳細については、[『Oracle Solaris ZFS 管理ガイド』の「ZFS ストレージプールの複製機能」](#)を参照してください。

### Select Disks

```

+-----+
|On this screen you must select the disks for installing Solaris
|software. Start by looking at the Suggested Minimum Field;
|this value is the approximate space needed to install the software
|you've selected. For ZFS, multiple disks will be configured as mirrors,
|so the disk you choose on the slice within the disk must exceed
|the Suggested Minimum Value.
|
| Note: ** denotes the current boot disk
|
|Disk Device                                     Available Space
|=====
|[X]** c0t0d0                                     69994 MB (F4 to edit)
|[X]   c0t1d0                                     69994 MB
|[-]   c0t2d0                                      0 MB
|[-]   c0t3d0                                      0 MB

```

```

|
|                                     Maximum Root Size: 69994 MB
|                                     Suggested Minimum: 8529 MB
|
|      F2_Continue   F3_Go Back   F4_Edit   F5_Exit   F6_Help
+-----+

```

「データの保存」画面が表示されます。

- 17 (オプション)ソフトウェアをインストールするために選択したディスク上のデータを保存します。

インストール用に選択したディスクに、ファイルシステムや命名されていないスライスが存在する場合、必要であればこの時点でそれらを保存できます。

Preserve Data?

```

+-----+
|Do you want to preserve existing data? At least one of the disks you've|
|selected for installing Solaris software has file systems or unnamed slices|
|that you may want to save|
|
|      F2_Continue   F4_Preserve   F6_Help
+-----+

```

データを保存する場合は F4 キーを押すと、データを保存するための画面が表示されます。

- 18 (オプション)保存するデータを選択します。

ZFS ルートをファイルシステムとして管理するには、スライス内のディスク全体のサイズを指定します。たとえば、スライス 0 のサイズを指定します。同じディスク上で異なるルートファイルシステムを共有している場合は、管理が難しいことがあります。

ルートファイルシステムとしてインストールされるディスクからデータをコピーするには、インストーラを終了し、このディスク上に保持するデータのバックアップを取ってから、インストーラを再起動します。

# **install-solaris**

ZFS 設定を構成するための画面が表示されます。

- 19 デフォルト値をそのまま使用するか、それらを変更します。

ZFS プールの名前、データセット名、プールサイズ、スワップ、およびダンプを変更できます。また、/var ファイルシステムの作成およびマウントの方法を変更することもできます。

Configure ZFS Settings

```

+-----+
|Specify the name of the pool to be created from the disk(s) you have chosen.|
|Also specify the name of the dataset to be created within the pool that is|
|to be used as the root directory for the filesystem.|
|
|
|
|                                     ZFS Pool Name: rpool
|
+-----+

```



```

|      ZFS Root Dataset Name: s10zfsBE
|      ZFS Pool Size in (MB): 69995
|      Size of swap area in (MB): 2048
|      Size of dump area in (MB): 1024
|      (Pool size must be between 6481 MB and 69995 MB)
|
|      [X] Keep / and /var combined
|      [ ] Put /var on a separate dataset
|
|      F2_Continue      F3_Go Back      F5_Exit      F6_Help
+-----+

```

リモートファイルシステムをマウントするための画面が表示されます。

## 20 リモートファイルシステムをマウントするかどうかを指定します。

```

Mount Remote File System
+-----+
|Do you want to mount a software from a remote file server? This may
|be necessary if you had to remove software because of disk space problems.
|
|      F2_Continue      F6_Help
+-----+

```

## 21 プロンプトが表示されたら、自動登録情報を入力します。

- インストールまたはアップグレードの前に **sysidcfg** ファイルで **auto\_reg** キーワードを使用して自動登録設定を行った場合は、構成に関する質問にすべて答える一部としてその情報が求められることはありません。

**auto\_reg** キーワードの使用方法については、『[Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: ネットワークベースのインストール](#)』の「**auto\_reg** キーワード」を参照してください。

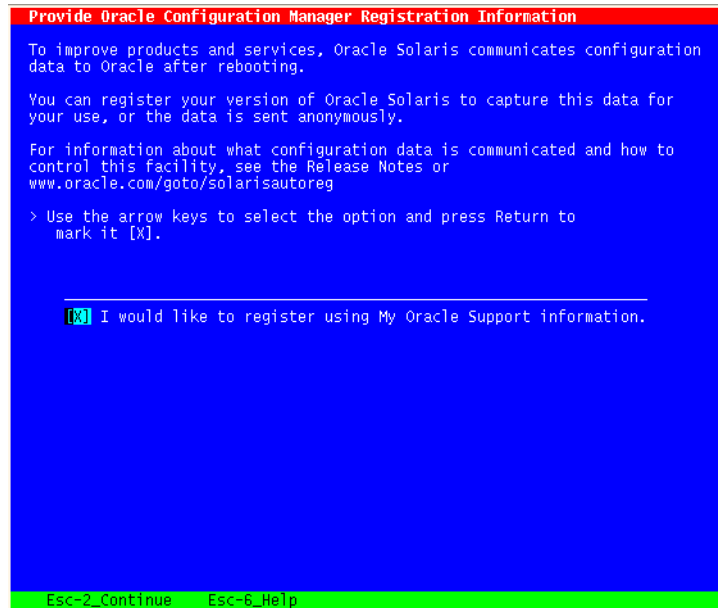
- **sysidcfg** ファイルに **auto\_reg** キーワードを含めなかった場合は、構成に関する質問にすべて答える一部として自動登録に関する情報を指定するように求められます。

---

注-インストールまたはアップグレードの最後に自動登録を無効にする場合は、何も情報を入力せずにこれらの自動登録画面を進めることができます。

---

- a. サポート資格情報を使って登録する場合はオプションを選択し、匿名でデータを送信する場合はオプションの選択を解除します。



オプションボックスに移動するときは、矢印キーを使用します。オプションボックスに印を付けて、サポート資格情報を使って登録するときは、Return キーを押します。続けるときは、Esc-2 キーを押します。

- b. 要求されたプロキシ情報と資格情報を指定します。  
サポート情報を使って登録することを選択した場合は、My Oracle Support のユーザー名とパスワードを指定するように求められます。プロキシサーバーを使用する場合は、サーバーのホスト名とポート番号、およびプロキシのユーザー名とパスワードを指定できます。

匿名で登録することを選択した場合は、この画面ではプロキシ情報だけが求められます。

行間を移動するときは、矢印キーを使用します。サポート資格情報とプロキシエントリ (オプション) を入力します。続けるときは、Esc-2 キーを押します。

「プロファイル」画面が表示されます。

## 22 「プロファイル」画面で、インストールに選択した内容を確認します。

必要に応じてインストールプロファイルを変更できます。次の例は、最後のインストールプロファイル画面です。

```

Profile
+-----+
|The information shown below is your profile for installing Solaris software.|
|It reflects the choices you've made on previous screens.                  |
|=====|
|                                     |
|          Installation Option: Initial                                     |
|                   Boot Device: c0t0d0                                   |
|      Root File System Type: ZFS                                           |
|          Client Services: None                                           |
|          System Locale: C ( C )                                          |
|                                     |
|          Software: Solaris 10, Entire Distribution                       |
|          Pool Name: rpool                                                 |
|      Boot Environment Name: s10zfsBE                                       |
|          Pool Size: 69995 MB                                             |
|          Devices in Pool: c0t0d0                                         |
|                                     |
+-----+

```

```

|                                     c0t1d0                                     |
|      F2_Begin Installation      F4_Change      F5_Exit      F6_Help      |
+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+-----+

```

- 23** Oracle Solaris ソフトウェアをインストールするには、**F2** キーを押し、指示に従います。

Oracle Solaris 対話式テキストプログラムによる Oracle Solaris ソフトウェアのインストールが終了すると、システムは自動的にリブートするか、または手動でリブートするように促します。

追加の製品をインストールする場合は、その製品の DVD または CD を挿入するように指示が表示されます。インストール手順については、該当するインストールドキュメントを参照してください。

インストールが終了すると、インストールログがファイルに保存されます。インストールログは、`/var/sadm/system/logs` ディレクトリと `/var/sadm/install/logs` ディレクトリに作成されます。

インストールが完了します。インストール後の自動リブートの選択を解除した場合は、続けて [手順 24](#) に進みます。

- 24** 前に自動リブートの選択を解除した場合は、次の 2 つのオプションのいずれかを選択します。

- 自動登録を無効にしない場合は、インストールメディアを取り出してから、次に示すように、手動でシステムをリブートします。

```
# reboot
```

- 自動登録を無効にして、リブート時に構成データをオラクルに送信しない場合は、手動でシステムをリブートする前に、次の手順を実行します。



注意 - システムが自動的にリブートする場合は、次の手順に従って自動登録を無効にすることはできません。代わりに、自動リブート後に、Oracle Configuration Manager (OCM) を使用して自動登録を無効にできます。『[Oracle Solaris の管理: 基本管理](#)』の第 17 章「[Oracle Configuration Manager の操作](#)」を参照してください

- インストールが完了したら、手動でリブートする前に、「!」を押して端末ウィンドウを開きます。
- コマンド行で、`/a/var/tmp/autoreg_config` ファイルを削除します。  

```
# rm /a/var/tmp/autoreg_config
```
- ファイルを保存します。

d. インストールメディアを取り出して、手動でシステムをリブートします。

# reboot

インストールした ZFS ルートプールでシステムがブートします。

boot コマンドに -L オプションを使用して、使用可能なブート環境のリストを表示できます。SPARC ベースのブートの詳細については、『[Oracle Solaris の管理: 基本管理](#)』の「[SPARC システムで指定した ZFS ルートファイルシステムからブートする](#)」を参照してください。

25 (省略可能) 結果として得られた ZFS ストレージプールとファイルシステムの情報を、次の例のように確認します。

zpool status および zfs list の出力例では、ルートプールのコンポーネントが特定されます。

```
# zpool status
pool: rpool
state: ONLINE
scan: none requested
config:
```

NAME	STATE	READ	WRITE	CKSUM
rpool	ONLINE	0	0	0
mirror-0	ONLINE	0	0	0
c0t0d0s0	ONLINE	0	0	0
c0t1d0s0	ONLINE	0	0	0

errors: No known data errors

```
# zfs list
NAME                                USED  AVAIL  REFER  MOUNTPOINT
rpool                               7.15G 59.4G   106K   /rpool
rpool/ROOT                          4.45G 59.4G   31K    legacy
rpool/ROOT/s10zfsBE                4.45G 59.4G   4.45G   /
rpool/dump                         1.00G 59.4G   1.00G   -
rpool/export                       63K   59.4G   32K    /export
rpool/export/home                   31K   59.4G   31K    /export/home
rpool/swap                         2.06G 61.5G   16K    -
```

最初に単一のディスクで ZFS ストレージプールを作成した場合は、インストール後にこのディスクを ZFS ミラー化構成に変換できます。ディスクの追加または接続の詳細については、『[Oracle Solaris ZFS 管理ガイド](#)』の「[ZFS ストレージプール内のデバイスを管理する](#)」を参照してください。

# x86: Oracle Solaris 対話式テキストインストーラによる ZFS 用の初期インストールの実行

Oracle Solaris 対話式テキストインストーラを使用して Oracle Solaris OS の初期インストールを実行できます。初期インストールを実行すると、インストール先のディス

ク上にあるデータが上書きされます。このセクションでは、DVD または CD メディアから Oracle Solaris OS をインストールする方法について説明します。

## ▼ x86: GRUB 付き Oracle Solaris 対話式テキストインストーラを使用して ZFS 用にインストールする方法

x86 システム用の Oracle Solaris インストールプログラムでは、GRUB ブートローダーが使用されます。この手順では、スタンドアロンの GRUB ブートローダー付き x86 システムを CD または DVD メディアからインストールする方法について説明します。GRUB ブートローダーの概要については、『[Oracle Solaris の管理: 基本管理](#)』の「[ブート時に GRUB メニューを編集してブート動作を変更する](#)」を参照してください。

始める前に インストールを開始する前に、次のタスクを行います。

- DVD-ROM または CD-ROM ドライブが直接接続されていないマシンやドメインに Oracle Solaris OS をインストールする場合は、別のマシンに接続されている DVD-ROM または CD-ROM ドライブを使用できます。手順の詳細は、『[Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: ネットワークベースのインストール](#)』の付録 B「[リモートからのインストールまたはアップグレード \(タスク\)](#)」を参照してください。
- 必要なメディアを用意してください。
  - DVD からインストールする場合は、Oracle Solaris Operating System DVD (x86 版) を使用してください。
  - CD メディアからインストールする場合:  
次のメディアが必要です。
    - Oracle Solaris ソフトウェア CD。
    - Oracle Solaris Languages CD (x86 版) – 特定の地域の言語をサポートする必要がある場合は、インストールプログラムによってこれらの CD を求めるプロンプトが表示されます。

---

注 – **Oracle Solaris 10 8/11** 以降のリリースでは、DVD のみが提供されます。Oracle Solaris ソフトウェア CD は提供されません。

---

- システムの BIOS を調べて、CD または DVD メディアからブートできることを確認します。

- Oracle Corporation 以外で製造されたシステムに Oracle Solaris OS をインストールする場合は、インストールを開始する前に、Oracle Solaris Hardware Compatibility List (<http://www.oracle.com/webfolder/technetwork/hcl/index.html>) を確認してください。

- (オプション) システムのバックアップをとります。

既存のデータやアプリケーションを保持するには、システムのバックアップをとります。ZFS ルートプールのバックアップについては、『Oracle Solaris ZFS 管理ガイド』の「ZFS ルートプールまたはルートプールのスナップショットを回復する」を参照してください。

- 1 適切なメディアをシステムに挿入します。

Oracle Solaris Operating System DVD または Oracle Solaris SOFTWARE - 1 CD からブートする場合は、そのディスクを挿入します。この場合、システムの BIOS が DVD または CD からのブートをサポートしている必要があります。

DVD または CD からブートするように BIOS を手動で設定する必要があることもあります。BIOS の設定方法については、ハードウェアのドキュメントを参照してください。

- 2 システムをシャットダウンして電源を切り、再び電源を入れてシステムをブートします。

- 3 CD または DVD からブートするように BIOS を手動で設定する必要がある場合は、システムのブート処理を中断する適切なキーシーケンスを入力します。

BIOS でブート優先順位を変更し、BIOS を終了してインストールプログラムに戻ります。

メモリーテストとハードウェア検出が実行されます。画面がリフレッシュされます。GRUB メニューが表示されます。

```
GNU GRUB version 0.95 (631K lower / 2095488K upper memory)
```

```
+-----+
| Oracle Solaris                               |
| Oracle Solaris Serial Console ttya          |
| Oracle Solaris Serial Console ttyb (for lx50, v60x and v65x) |
|                                              |
+-----+
```

```
Use the ^ and v keys to select which entry is highlighted.
Press enter to boot the selected OS, 'e' to edit the
commands before booting, or 'c' for a command-line.
```

- 4 「Solaris」を選択し、Enter キーを押します。

デフォルトのブートディスクが、システムのインストールまたはアップグレードに必要な条件を満たしているかどうかを検査されます。インストールプログラムがシステム構成を検出できない場合は、不足している情報の入力を求めるプロンプトが表示されます。

検査が完了すると、インストールの選択画面が表示されます。

- 5 デスクトップセッションの対話式テキストインストーラを選択するには、**3**と入力してから **Enter** キーを押します。

このインストールの種類を選択すると、デフォルトの GUI インストーラをオーバーライドして ZFS インストール用のテキストインストーラを実行します。

システムでデバイスとインタフェースが構成され、構成ファイルが検索されます。オペレーティングシステムが自己識別キーボードを見つけられない場合は、画面にキーボード配列の選択情報が表示されます。システムが自己識別キーボードを見つけた場合は、[手順 7](#)に進んでください。

- 6 (省略可能) キーボード配列を一覧表示する画面が表示された場合は、必要なキーボード配列を選択し、**F2** キーを押して続行します。  
システムでデバイスとインタフェースが構成され、構成ファイルが検索されます。ウィンドウが機能していることを確認する2つの画面が表示される場合があります。次の2つの画面で確認し、テキストモードで続行します。

- 7 次の画面が表示された場合は、**Enter** キーを押します。

```
Starting Oracle Solaris Interactive (graphical user interface)
Installation
```

```
+-----+
| You must respond to the first question within 30 seconds |
| or the installer proceeds in a non-window environment   |
| (console mode).                                          |
|                                                         |
| If the screen becomes blank or unreadable the installer |
| proceeds in console mode.                               |
|                                                         |
| If the screen does not properly revert to console mode, |
| restart the installation and make the following selection: |
|                                                         |
|         Oracle Solaris Interactive Text (Console session) |
|                                                         |
+-----+
```

進捗メッセージが完了すると、別の確認画面が表示されます。

- 8 次のテキスト画面内にカーソルを移動して、**Enter** キーを押します。

```
+-----+
| If the screen is legible, press ENTER in this window.   |
|                                                         |
|                                                         |
|                                                         |
+-----+
```

言語の選択肢の一覧が表示される場合があります。この画面が表示されない場合は、[手順 10](#)に進んでください。



- 9 言語の選択肢が表示された場合は、インストール時に使用する言語を選択し、F2 キーを押します。

```

Select a Language
+-----+
| Please specify the the language from the list below. |
|                                                       |
| To make a selection, use the arrow keys to highlight the option and |
| press Return to mark it [X]. |
|                                                       |
|      [ ] English |
|      [ ] French  |
|      [ ] German   |
|      [ ] Italian  |
|      [ ] Japanese |
|      [ ] Korean   |
|      [ ] Simplified Chinese |
|      [ ] Spanish  |
|      [ ] Swedish  |
|      [ ] Traditional Chinese |
|      [ ] UK-English |
|                                                       |
|      F2_Continue   F6_Help |
+-----+

```

- 10 F2 キーを押します。  
Oracle Solaris のインストール画面が表示されます。
- 11 プロンプトが表示されたら、システム構成情報を入力します。
- すべてのシステム情報が事前構成されている場合は、構成情報の入力はありません。  
詳細は、『[Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: ネットワークベースのインストール](#)』の第2章「システム構成情報の事前構成 (タスク)」を参照してください。
  - すべてのシステム情報が事前構成されている場合以外は、インストールプログラムのいくつかの画面で情報の入力が必要です。  
[16 ページの「インストール用のチェックリスト」](#)を参照して、構成の質問に答えしてください。
- 12 プロンプトが表示されたら、リモートクライアントによるネットワークサービスの使用を有効にするかどうかを指定します。
- ネットワークサービスを有効にするには、デフォルトの回答 (「**Yes, I would like to enable network services for use by remote clients**」) を選択します。

- 「いいえ」を選択すると、より高いセキュリティーで保護された構成となり、リモートクライアントに提供されるネットワークサービスは **Secure Shell** だけになります。

必要に応じて、`net services open` コマンドを使用するか、SMF コマンドを使用して個別にサービスを有効にする方法で、インストール後にネットワークサービスを有効にできます。『[Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: インストールとアップグレードの計画](#)』の「インストール後のセキュリティー設定の修正」を参照してください。

これらのオプションについての詳細は、『[Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: インストールとアップグレードの計画](#)』の「ネットワークセキュリティーの計画」を参照してください。

構成の質問に答え、ルートパスワードを設定すると、Oracle Solaris の対話式インストール画面が表示されます。

Solaris Interactive Installation

```
+-----+
|On the following screens, you can accept the defaults or you can customize
| how Solaris software will be installed by:
|   - Selecting the type of Solaris software to install
|   - Selecting disks to hold the software you've selected
|   - Selecting unbundled products to be installed with Solaris
|   - Specifying how file systems are laid out on the disks
|
|After completing these tasks, a summary of your selections
| (called a profile) will be displayed.
|
|There are two ways to install your Solaris software:
|
|   - 'Standard' installs your system from a standard Solaris Distribution.
|     Selecting 'standard' allows you to choose between initial install
|     and upgrade, if your system is upgradeable.
|
|   - 'Flash' installs your system from one or more Flash Archives.
|
|   F2_Continue      F4-Flash      F5-Exit      F6_Help
+-----+
```

### 13 インストール方法を選択します。

- **ZFS** フラッシュアーカイブをインストールするには、**F4** キーを押します。  
ZFS フラッシュアーカイブをインストールするステップごとの手順については、『[Oracle Solaris ZFS 管理ガイド](#)』を参照してください。
- **ZFS** ルートファイルシステムの初期インストールを実行するには、**F2** キーを押します。

### 14 システムのリポートとディスクの取り出しを自動的に行うかどうかを指定します。**F2** キーを押します。

注- システムをリブートする前に自動登録を無効にする場合は、自動リブートの選択を解除します。

システム上に ZFS ストレージプールがすでに存在する場合、それらは次のメッセージで認識されますが、既存のプールのディスクを選択して新しいストレージプールを作成する場合以外は変更されません。

```
There are existing ZFS pools available on this system.
However, they can only be upgraded using the Live Upgrade tools.
The following screens will only allow you to install a ZFS root system,
not upgrade one.
```

ZFS ストレージプールがシステム上にすでに存在するというメッセージが表示されたら、F2 キーを押して続行します。

ライセンス画面が表示されます。

- 15 インストールを続行する場合は、ライセンス条項に同意します。F2 キーを押します。

「アップグレード」または「初期」インストールの選択画面が表示される場合があります。アップグレード可能な UFS ファイルシステムがある場合は、この画面が表示されます。この画面が表示されない場合は、[手順 17](#)に進んでください。

- 16 ZFS のインストールを実行するには、F4 キーを押して初期インストールを行います。地域、ロケール、および追加の製品を選択する画面が表示されます。

- 17 地域、ロケール、および追加の製品を選択します。  
「ファイルシステムの種類の選択」画面が表示されます。

- 18 ZFS ルートプールを作成してインストールするには、ZFS オプションを選択します。

Choose a Filesystem Type

```
+-----+
|       Select the filesystem to use for your Solaris installation       |
|                                                                           |
|               [ ] UFS                                                    |
|               [X] ZFS                                                    |
|                                                                           |
|       F2_Continue      F6_Help                                          |
+-----+
```

「ソフトウェアの選択」画面が表示されます。

**19 実行するインストールの種類を選択します。F2 キーを押します。**

デフォルトインストールを実行するには、表示されるデフォルト値をそのまま使用します。カスタムインストールを実行するには、テキストインストーラの画面で値を編集します。この例では、デフォルトの「全体ディストリビューション」のインストールが選択されています。

ソフトウェアグループの詳細については、[14 ページの「ソフトウェアグループごとの推奨ディスク容量」](#)を参照してください。

Select Software

```
+-----+
|Select the Solaris software to install on the system
|
|Note: After selecting a software group, you can add or remove
|software by customizing it. However this requires understanding of
|software dependencies and how Solaris software is packaged.
|
| [ ] Entire Distribution plus OEM support .....8575.00 MB
|[X] Entire Distribution.....8529.00 MB
|[ ] Developer System Support.....8336.00 MB
|[ ] End User System Support.....7074.00 MB
|[ ] Core System Support.....3093.00 MB
|[ ] Reduced Networking Core System Support.....3035.00 MB
|
|
|      F2_Continue      F6_Help
+-----+
```

「ディスクの選択」画面が表示されます。

インストールするソフトウェアを選択したあと、ZFS ストレージプールを作成するためのディスクの選択を求めるプロンプトが表示されます。この画面は以前の Oracle Solaris リリースと同様ですが、次のテキストが異なります。

For ZFS, multiple disks will be configured as mirrors, so the disk you choose, or the slice within the disk must exceed the Suggested Minimum value.

**20 ZFS ルートプールに使用するディスクとして、1 つまたは複数を選択します。**

次の情報に注意してください。

- 単一のディスクを選択した場合、あとでミラー化構成にするには、Managing Devices in ZFS Storage Pools [『Oracle Solaris ZFS 管理ガイド』の「ZFS ストレージプール内のデバイスを管理する」](#) コマンドを参照してください。
- 2 つのディスクを選択すると、ルートプールには 2 ディスク構成が設定されます。2 ディスクまたは 3 ディスクのミラー化プールが最適です。
- 8 つのディスクがある場合に 8 つのディスクすべてを選択すると、ルートプールでは 8 つのディスクが単一の大規模なミラーとして使用されます。これは最適な構成ではありません。

ルートプールではRAID-Z プール構成はサポートされていません。ZFS ストレージプールの構成方法の詳細については、『Oracle Solaris ZFS 管理ガイド』の「ZFS ストレージプールの複製機能」を参照してください。

```
Select Disks
+-----+
|On this screen you must select the disks for installing Solaris
|software. Start by looking at the Suggested Minimum Field;
|this value is the approximate space needed to install the software
|you've selected. For ZFS, multiple disks will be configured as mirrors,
|so the disk you choose on the slice within the disk must exceed
|the Suggested Minimum Value.
|
|   Note: ** denotes the current boot disk
|
|Disk Device                                     Available Space
|=====
|[X]** c0t0d0                                     69994 MB (F4 to edit)
|[X]   c0t1d0                                     69994 MB
|[-]   c0t2d0                                      0 MB
|[-]   c0t3d0                                      0 MB
|
|                                     Maximum Root Size: 69994 MB
|                                     Suggested Minimum: 8529 MB
|
|   F2_Continue   F3_Go Back   F4_Edit   F6_Help
+-----+
```

「データの保存」画面が表示されます。

- 21 (オプション)ソフトウェアをインストールするために選択したディスク上のデータを保存します。

インストール用に選択したディスクに、ファイルシステムや命名されていないスライスが存在する場合、必要であればこの時点でそれらを保存できます。

```
Preserve Data?
+-----+
|Do you want to preserve existing data? At least one of the disks you've
|selected for installing Solaris software has file systems or unnamed slices
|that you may want to save
|
|   F2_Continue   F4_Preserve   F6_Help
+-----+
```

データを保存する場合はF4キーを押すと、データを保存するための画面が表示されます。

**22 (オプション)保存するデータを選択します。**

ZFS ルートをファイルシステムとして管理するには、スライス内のディスク全体のサイズを指定します。たとえば、スライス 0 のサイズを指定します。同じディスク上で異なるルートファイルシステムを共有している場合は、管理が難しいことがあります。

ルートファイルシステムとしてインストールされるディスクからデータをコピーするには、インストーラを終了し、このディスク上に保持するデータのバックアップを取ってから、インストーラを再起動します。

**# install-solaris**

ZFS 設定を構成するための画面が表示されます。

**23 デフォルト値をそのまま使用するか、それらを変更できます。**

ZFS プールの名前、データセット名、プールサイズ、スワップ、およびダンプを変更できます。また、/var ファイルシステムの作成およびマウントの方法を変更することもできます。

Configure ZFS Settings

```
+-----+
|Specify the name of the pool to be created from the disk(s) you have chosen.|
|Also specify the name of the dataset to be created within the pool that is |
|to be used as the root directory for the filesystem.                        |
|                                                                             |
|               ZFS Pool Name: rpool                                       |
|       ZFS Root Dataset Name: s10ZfsBE                                   |
|               ZFS Pool Size in (MB): 69995                               |
|               Size of swap area in (MB): 2048                           |
|               Size of dump area in (MB): 1024                           |
|               (Pool size must be between 6481 MB and 69995 MB)           |
|                                                                             |
|                               [X] Keep / and /var combined                |
|                               [ ] Put /var on a separate dataset           |
|                                                                             |
|       F2_Continue      F3_Go Back      F5_Exit      F6_Help              |
+-----+
```

リモートファイルシステムをマウントするための画面が表示されます。

**24 リモートファイルシステムをマウントするかどうかを指定します。**

Mount Remote File System

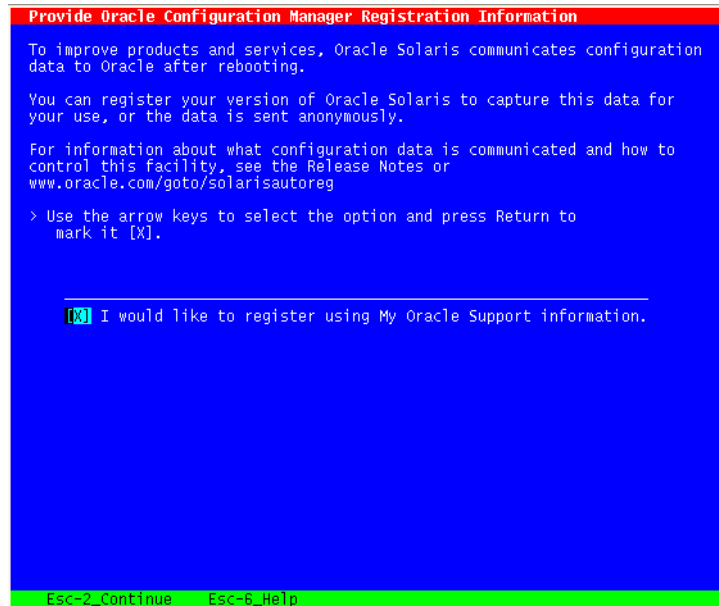
```
+-----+
|Do you want to mount a software from a remote file server? This may       |
|be necessary if you had to remove software because of disk space problems.|
|                                                                             |
|       F2_Continue      F6_Help                                           |
+-----+
```

## 25 プロンプトが表示されたら、自動登録情報を入力します。

- インストールまたはアップグレードの前に **sysidcfg** ファイルで **auto\_reg** キーワードを使用して自動登録設定を行った場合は、構成に関する質問にすべて答える一部としてその情報が求められることはありません。
- **sysidcfg** ファイルに **auto\_reg** キーワードを含めなかった場合は、構成に関する質問にすべて答える一部として自動登録に関する情報を指定するように求められます。

注-インストールまたはアップグレードの最後に自動登録を無効にする場合は、何も情報を入力せずにこれらの自動登録画面を進めることができます。

- a. サポート資格情報を使って登録する場合はオプションを選択し、匿名でデータを送信する場合はオプションの選択を解除します。



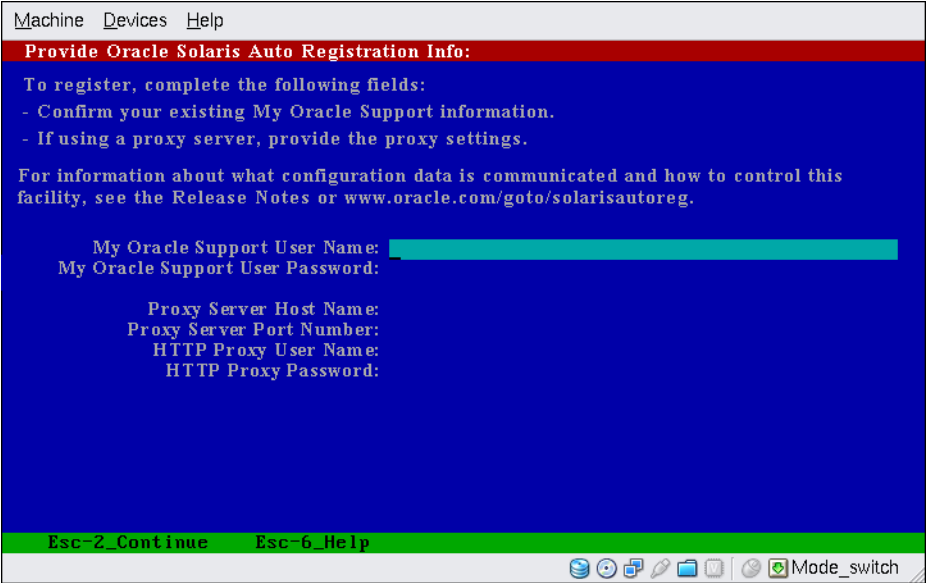
オプションボックスに移動するときは、矢印キーを使用します。オプションボックスに印を付けて、サポート資格情報を使って登録するときは、Return キーを押します。続けるときは、Esc-2 キーを押します。

- b. 要求されたプロキシ情報と資格情報を指定します。  
サポート情報を使って登録することを選択した場合は、My Oracle Support のユーザー名とパスワードを指定するように求められます。プロキシサーバーを

使用する場合は、サーバーのホスト名とポート番号、およびプロキシのユーザー名とパスワードを指定できます。

匿名で登録することを選択した場合は、この画面ではプロキシ情報だけが求められます。

図 3-1 自動登録のデータ入力のテキスト画面



行間を移動するときは、矢印キーを使用します。サポート資格情報とプロキシエントリ (オプション) を入力します。続けるときは、Esc-2 キーを押します。

「プロファイル」画面が表示されます。

- 26 「プロファイル」画面で、インストールに選択した内容を確認します。
- 必要に応じてインストールプロファイルを変更できます。次の例は、最後のインストールプロファイル画面です。

```
Profile
+-----+
|The information shown below is your profile for installing Solaris software.|
|It reflects the choices you've made on previous screens.                  |
|=====|
|                                     |
|          Installation Option: Initial  |
|              Boot Device: c0t0d0      |
|      Root File System Type: ZFS        |
|              Client Services: None    |
|                                     |
+-----+
```



```

                                System Locale: C ( C )

                                Software: Solaris 10, Entire Distribution
                                Pool Name: rpool
                                Boot Environment Name: s10ZfsBE
                                Pool Size: 69995 MB
                                Devices in Pool: c0t0d0
                                                c0t1d0

                                F2_Begin Installation    F4_Change    F5_Exit    F6_Help
+-----+-----+-----+-----+

```

- 27** Oracle Solaris ソフトウェアをインストールするには、**F2** キーを押し、指示に従います。

Oracle Solaris 対話式テキストプログラムによる Oracle Solaris ソフトウェアのインストールが終了すると、システムは自動的にリブートするか、または手動でリブートするように促します。

追加の製品をインストールする場合は、その製品の DVD または CD を挿入するように指示が表示されます。インストール手順については、該当するインストールドキュメントを参照してください。

インストールが終了すると、インストールログがファイルに保存されます。インストールログは、`/var/sadm/system/logs` ディレクトリと `/var/sadm/install/logs` ディレクトリに作成されます。

インストールが完了します。前にインストーラの画面で自動リブートの選択を解除した場合は、続けて [手順 28](#) に進みます。

- 28** 前に自動リブートの選択を解除した場合は、次の 2 つのオプションのいずれかを選択します。
- 自動登録を無効にしない場合は、インストールメディアを取り出してから、次に示すように、手動でシステムをリブートします。
- ```
# reboot
```
- 自動登録を無効にして、リブート時に構成データをオラクルに送信しない場合は、手動でシステムをリブートする前に、次の手順を実行します。



注意 - システムが自動的にリブートする場合は、次の手順に従って自動登録を無効にすることはできません。代わりに、自動リブート後に、Oracle Configuration Manager (OCM) を使用して自動登録を無効にできます。『[Oracle Solaris の管理: 基本管理](#)』の第 17 章「[Oracle Configuration Manager の操作](#)」を参照してください

- a. インストールが完了したら、手動でリブートする前に、「**!**」を押して端末ウィンドウを開きます。

b. コマンド行で、`/a/var/tmp/autoreg_config` ファイルを削除します。

```
# rm /a/var/tmp/autoreg_config
```

c. ファイルを保存します。

d. インストールメディアを取り出して、手動でシステムをリブートします。

```
# reboot
```

システムをリブートすると、GRUB メニューに、新しくインストールした Oracle Solaris OS などのインストールされているオペレーティングシステムの一覧が表示されます。

29 ブートするオペレーティングシステムを選択します。

新たに選択を行わなかった場合は、デフォルトの選択が読み込まれます。

GRUB メニューリストが表示されます。

```
GNU GRUB version 0.95 (637K lower / 3144640K upper memory)
```

```
+-----+
|Oracle Solaris 10 8/11 s10zfsBE          |
|Solaris Failsafe                        |
|   |
|+-----+
```

```
Use the ^ and v keys to select which entry is highlighted.
Press enter to boot the selected OS, .e. to edit the
commands before booting, or .c. for a command-line.
```

30 GRUB メニューが表示されたら、**Enter** キーを押してデフォルトの **OS** インスタンスをブートします。デフォルトは、新しくインストールしたルートプールです。

この例では、ブート環境名は `szboot_0507` です。10 秒以内にエントリを選択しないと、システムは自動的にブートします。

31 インストールが完了したら、結果として得られた **ZFS** ストレージプールとファイルシステムの情報を確認します。

この例の `zpool status` および `zfs list` の出力例では、ルートプールのコンポーネントが特定されます。

```
# zpool status
pool: rpool
state: ONLINE
scan: none requested
config:
```

| NAME     | STATE  | READ | WRITE | CKSUM |
|----------|--------|------|-------|-------|
| rpool    | ONLINE | 0    | 0     | 0     |
| mirror-0 | ONLINE | 0    | 0     | 0     |
| c0t0d0s0 | ONLINE | 0    | 0     | 0     |
| c0t1d0s0 | ONLINE | 0    | 0     | 0     |

```
errors: No known data errors
```

```
# zfs list
```

| NAME                | USED  | AVAIL | REFER | MOUNTPOINT   |
|---------------------|-------|-------|-------|--------------|
| rpool               | 7.15G | 59.4G | 106K  | /rpool       |
| rpool/ROOT          | 4.45G | 59.4G | 31K   | legacy       |
| rpool/ROOT/s10zfsBE | 4.45G | 59.4G | 4.45G | /            |
| rpool/dump          | 1.00G | 59.4G | 1.00G | -            |
| rpool/export        | 63K   | 59.4G | 32K   | /export      |
| rpool/export/home   | 31K   | 59.4G | 31K   | /export/home |
| rpool/swap          | 2.06G | 61.5G | 16K   | -            |

最初に単一のディスクで ZFS ストレージプールを作成した場合は、インストール後にこのディスクを ZFS ミラー化構成に変換できます。ディスクの追加または接続の詳細については、『[Oracle Solaris ZFS 管理ガイド](#)』の「[ZFS ストレージプール内のデバイスを管理する](#)」を参照してください。

## 参考 次の手順

使用するマシンに複数のオペレーティングシステムをインストールする場合、ブートするためには、それらのオペレーティングシステムを GRUB ブートローダーに認識させる必要があります。詳細は、『[Oracle Solaris の管理: 基本管理](#)』の「[ブート時に GRUB メニューを編集してブート動作を変更する](#)」を参照してください。



# iSCSI ターゲットディスクへの Oracle Solaris 10 OS のインストール

---

この章では、Oracle Solaris 10 OS を iSCSI ターゲットにインストールするプロセス、および iSCSI インストールに使用できるさまざまな方法について説明します。

この章で扱う内容は、次のとおりです。

- 85 ページの「iSCSI インストール (概要)」
- 89 ページの「iSCSI パラメータの構成」
- 94 ページの「(例) ターゲットの準備およびターゲットとイニシエータの関連付け」

## iSCSI インストール (概要)

iSCSI (Internet Small Computer System Interface) は、データストレージサブシステムを結合するための、インターネットプロトコル (IP) ベースのストレージネットワーキング標準です。このネットワーキング標準は、IETF (Internet Engineering Task Force) によって開発されました。iSCSI 技術の詳細は、RFC 3720 (<http://www.ietf.org/rfc/rfc3720.txt>) を参照してください。

このドキュメントで、iSCSI インストールとは、構成済みの発見可能な iSCSI ターゲットに Oracle Solaris 10 OS をインストールすることです。iSCSI パラメータはインストールの前に構成しておく必要があります。iSCSI 技術については、『Oracle Solaris の管理: デバイスとファイルシステム』の「Oracle Solaris iSCSI の技術 (概要)」を参照してください。

このセクションの内容は次のとおりです。

- 86 ページの「ハードウェア要件とファームウェア要件」
- 86 ページの「iSCSI の構成とインストール」
- 87 ページの「iSCSI ターゲットの作成と構成」

## ハードウェア要件とファームウェア要件

詳細は、『Oracle Solaris の管理: デバイスとファイルシステム』の「Solaris iSCSI のソフトウェア要件およびハードウェア要件の識別」を参照してください。

iSCSI インストールを正常に行うには、次のファームウェア要件に注意してください。

SPARC システムの場合、OBP バージョンは 4.32.2 以上であるべきです。JumpStart インストールで LUN の値が 0 以外の場合、イニシエータおよびターゲットの OBP バージョンは 4.33.2 以上であるべきです。

x86 システムの場合、NIC に iBFT が必要です。iSCSI Boot Firmware Table (<http://msdn.microsoft.com/en-us/windows/hardware/gg463101.aspx>) を参照してください。

## iSCSI の構成とインストール

iSCSI インストールには次の段階があります。

1. 発見 – iSCSI ターゲットの発見には、静的デバイス発見と動的デバイス発見の 2 方式があります。詳細は、『Oracle Solaris の管理: デバイスとファイルシステム』の「Solaris iSCSI ターゲットデバイスの構成 (タスク)」を参照してください。
2. インストール – 次のいずれかの方法を使用して、iSCSI パラメータを構成し、iSCSI ターゲットに Oracle Solaris 10 OS をインストールできます。
  - 対話式テキスト。初期インストール、アップグレード、およびフラッシュベースのインストールが含まれます。詳細は、89 ページの「iSCSI パラメータの構成」を参照してください。
  - JumpStart。詳細は、92 ページの「iSCSI パラメータの構成: JumpStart インストール方式」を参照してください。
  - WAN ブート。詳細は、『Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: ネットワークベースのインストール』のパート III 「広域ネットワーク経由のインストール」を参照してください。
3. ブート – OS のインストール後、システムを自動的にリブートするように選択できます。89 ページの「イニシエータの iSCSI パラメータを構成する方法 (対話式テキスト方式)」の手順 7 を参照してください。

## サポートされている SPARC システム

次の SPARC システムは、iSCSI ディスクからのブートをサポートしています。

- Sun SPARC Enterprise T5120 および T5220 サーバー
- Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバー
- Sun SPARC Enterprise T5440 サーバー
- SPARC T3-1 サーバー

- SPARC T3-1B サーバー
- SPARC T3-4 サーバー
- SPARC T3-2 サーバー

## iSCSI ターゲットの作成と構成

iSCSI ターゲットへの Oracle Solaris 10 OS のインストールを開始する前に、iSCSI ターゲットを作成しておく必要があります。iSCSI ターゲットをホストイニシエータで見えるようにしておく必要があります。

iSCSI インストールに関連して、次の用語が定義されています。

|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| イニシエータまたはホストシステム | インストールおよび iSCSI ディスクからのブートに使用されるシステム。ホストシステムとイニシエータという用語は同義で使用され、同じ意味を持ちます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| ターゲットシステム        | 1 つ以上の iSCSI ターゲットをホストするシステム。各 iSCSI ターゲットは一意に識別され、ターゲットはグローバルに可視にするかイニシエータ固有に構成できます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| iSCSI ターゲット名     | <p>iSCSI ターゲット名には、RFC 3720 に記載されている iSCSI 修飾名 (IQN) が含まれ、RFC 3721 には名前の例が追加されています。詳細は、<a href="#">IETF</a> のサイトを参照してください。たとえば、<code>iqn.1986-03.com.sun:02:358ddb8f8-601a-e73a-df56-89</code> は一般的な iSCSI ターゲット名です。名前は次のフィールドで構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ リテラル <i>IQN</i></li> <li>■ 命名機関がドメインの所有権を得た日付 (yyyy-mm)</li> <li>■ 機関の予約済みドメイン名</li> <li>■ 命名機関によって指定されたストレージターゲット名の前に付加されるオプションのコロン「:」。</li> </ul> |
| LUN (論理ユニット番号)   | LUN は、物理 SCSI デバイス (ターゲット) の一部である、個別にアドレス指定可能な (論理) SCSI デバイスを表します。iSCSI 環境では、LUN は実質的に番号付きディスクドライブです。イニシエータはターゲットとのネ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

ゴシエーションを行なって LUN への接続を確立します。その結果、SCSI ハードディスクへの接続に似た iSCSI 接続になります。イニシエータは iSCSI LUN を raw SCSI または IDE ハードドライブと同様に扱います。たとえば、NFS または CIFS 環境で行われるようにリモートディレクトリをマウントする代わりに、iSCSI システムは iSCSI LUN 上のファイルシステムをフォーマットして直接管理します。エンタープライズ配備において、LUN は通常は大規模 RAID ディスクアレイのスライスを表し、多くの場合は各クライアントに 1 つずつ割り当てられます。iSCSI では、個々の LUN を複数のコンピュータで共有することに規則や制限はありません。基になる単一のファイルシステムへの共有アクセスは、オペレーティングシステムのタスクとして任されます。

## CHAP

CHAP (Challenge-Handshake Authentication Protocol) は、イニシエータに対する iSCSI ターゲットの認証に使用されます。CHAP を使用することで、平文のパスワードがネットワーク上に転送されることが防止されます。また、CHAP 認証では、ターゲットがユーザーまたはイニシエータにいったん関連付けられると、そのターゲットがほかのホストシステムには不可視になることも保証されます。単方向の CHAP 認証だけがサポートされています。

iSCSI ターゲットおよびイニシエータの構成については、次のリンクを参照してください。

- 『Oracle Solaris の管理: デバイスとファイルシステム』の「Solaris iSCSI ターゲットデバイスの構成 (タスク)」。
- `iscsitadm(1M)`
- `iscsiadm(1M)`



## iSCSI パラメータの構成

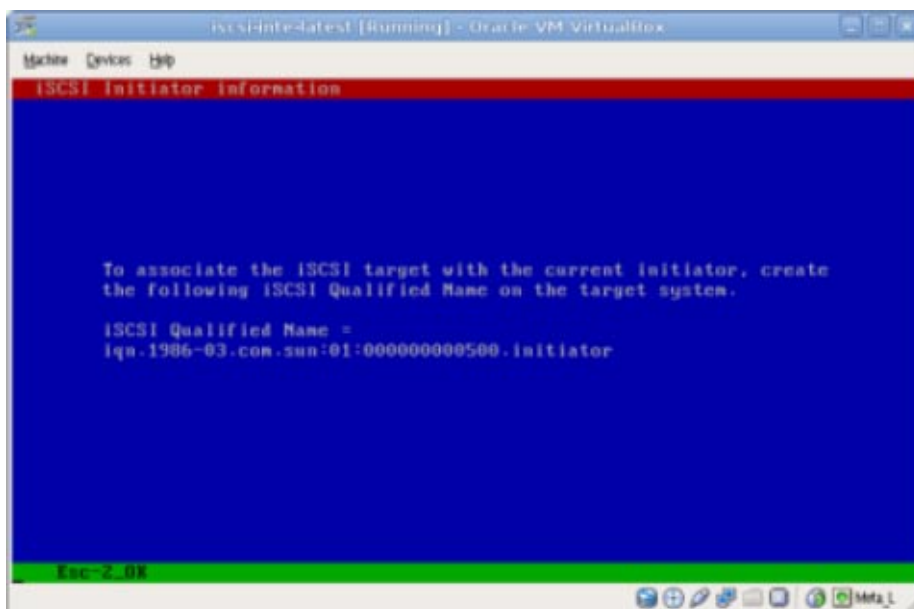
iSCSI ターゲットに Oracle Solaris 10 OS をインストールする前に、ホストシステムが発見モードの指定、インストールに使用できるターゲットの表示と選択、およびターゲットシステムに対する自身の認証を行うことができるように、一連のパラメータを指定します。

インストーラによる発見およびセキュリティーのモードについて、以降のセクションで説明します。

### ▼ イニシエータの iSCSI パラメータを構成する方法 (対話式テキスト方式)

次の手順では、テキストインストール方式によってホストイニシエータの iSCSI パラメータを構成します。

- 始める前に
- iSCSI ターゲットシステムが現在のイニシエータシステムに対して自身の識別と関連付けを行うことができるように、ターゲットシステムに IQN 番号を作成する必要があります。IQN 番号はユーザーに提供され、画面に表示されます。ホストシステムによって生成される IQN 番号の例を次に示します。



- このタスクで使用される必須パラメータとオプションパラメータの定義については、[87 ページの「iSCSI ターゲットの作成と構成」](#)を参照してください。

### 1 インストールの種類を選択します。

iSCSI ターゲット以外に OS をインストールするように選択すると、OS のインストール画面に移動します。

### 2 ターゲットを見つけるための必須フィールドの値を入力します。

ターゲットの発見には2つの方法があります。

- SendTargets – この方法は、指定された iSCSI ターゲットシステム上のすべてのターゲットを検索します。「ターゲットの IP」および「ターゲットのポート」必須フィールドの値は必須です。
- 静的発見 – iSCSI ドライバとその他のサブシステムは、近傍のすべてのターゲットを発見し、OID (ターゲットのオブジェクト ID) と LUN リストを更新し、iSCSI ターゲットをローカルディスクとして `c0t0d0s0` 形式で列挙し、ディスクをマウントしようとするため、多数のターゲットが存在する場合はこの方法が推奨されます。

---

注 – この方法の場合、必須フィールドの値のほかに、IQN (iSCSI Qualified Target Name) の値も必須です。

---

iSCSI の「ターゲット IP」および iSCSI の「ターゲットポート」フィールドは必須フィールドです。

|                 |                                                                                      |
|-----------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| iSCSI ターゲットの IP | TCP/IP 経由の iSCSI を構成する場合に必須です。各ターゲット IP は、ディスクやテープなどの物理デバイスを表す場合も、仮想ターゲットを表す場合もあります。 |
|-----------------|--------------------------------------------------------------------------------------|

|                 |                                                         |
|-----------------|---------------------------------------------------------|
| iSCSI ターゲットのポート | iSCSI ターゲットサーバーがイニシエータからのリクエストを待機するポート。デフォルト値は 3260 です。 |
|-----------------|---------------------------------------------------------|

### 3 (省略可能) 必要な場合は、次のフィールドの値を入力します。

|                  |                                      |
|------------------|--------------------------------------|
| iSCSI ターゲットの LUN | 静的発見方法を使用してターゲットを発見する場合、LUN の値は必須です。 |
|------------------|--------------------------------------|

|              |                                                                                             |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| iSCSI ターゲット名 | たとえば、 <code>iqn.1986-03.com.sun:02:358ddbfb8-601a-e73a-df56-89</code> は一般的な iSCSI ターゲット名です。 |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|

## CHAP 認証

CHAP 認証が必要な場合は、ターゲットシステムに対するホストイニシエータの認証に使用するユーザー名とパスワードを入力します。この値は CHAP シークレットです。

CHAP 認証の詳細については、『[Oracle Solaris の管理: デバイスとファイルシステム](#)』の「[iSCSI ベースのストレージネットワークにおける認証の構成](#)」を参照してください。

- 4 ターゲットデバイスで IQN 番号を入力します。
- 5 iSCSI ターゲットを構成して準備します。  
詳細は、[94 ページの「\(例\) ターゲットの準備およびターゲットとイニシエータの関連付け」](#)を参照してください。
- 6 完了後に CD/DVD を自動的に取り出すか手動で取り出すかを選択します。
- 7 F2 キーを押して続行します。
- 8 OS をインストールし、システムをリブートします。
  - SPARC システムの場合、システムは自動的にリブートします。
  - X86 システムの場合は、次の手順に従ってリブートします。
    - a. BIOS に入り、ターゲットからブートする iBFT (iSCSI Boot Firmware Table) カードを選択します。  
F12 キーを押して BIOS メニューの「Setup」にアクセスします。Ctrl-S キーを押して iBFT メニューに入ります。
    - b. BIOS の設定を保存して、iBFT メニューの「General Parameters」および「Target Information Parameters」のイニシエータとターゲットの情報を更新します。

---

注 - Oracle Solaris 10 OS がインストールされた iSCSI ターゲット LUN からブートするには、ブート元の iBFT カードが iSCSI ターゲットシステムと同じサブネット内にあるべきです。さらに、iBFT メニューで NIC カードを構成することにより、DHCP または静的 IP によって IP アドレスを取得するように構成できます。

たとえば、iBFT カードの IP アドレスを静的 IP によって取得するには、iBFT メニューの「General Parameters」オプションで、「TCP/IP parameters via DHCP」オプションを「Disabled」に設定します。さらに、「Initiator Parameters」メニューで、少なくとも次のパラメータを指定する必要があります。

- IP アドレス
  - サブネットマスク
  - デフォルトゲートウェイ
- 

参照 Intel iSCSI NIC については、<http://www.intel.com/content/www/us/en/network-adapters/gigabit-network-adapters/ethernet-unified-networking-iscsi.html> を参照してください。

## iSCSI パラメータの構成: JumpStart インストール方式

JumpStart インストール方式は、作成するプロファイルを基にして、複数のシステムを自動的にインストールまたはアップグレードできる、コマンド行インタフェース方式です。プロファイルには、どのようにソフトウェアをインストールするかを定義します。さらに、インストール前とインストール後に実行するタスクを、シェルスクリプトを使用して指定することができます。システムのインストールまたはアップグレードにどのプロファイルとスクリプトを使用するかを選択できます。

JumpStart インストール方式では、選択したプロファイルとスクリプトに基づいて、システムがインストールまたはアップグレードされます。また、sysidcfg ファイルを使用して構成情報を指定することにより、カスタム JumpStart インストールを完全に自動化することも可能です。プロファイルの作成と JumpStart プロセスについては、『Oracle Solaris 10 1/13 インストールガイド: JumpStart インストール』を参照してください。

JumpStart 方式を使用して iSCSI ターゲットに Oracle Solaris 10 OS をインストールする場合は、次の新しいキーワードをプロファイルに含めます。

- iscsi\_target\_name
- iscsi\_target\_ip

- `iscsi_target_lun`
- `iscsi_target_port`
- `iscsi_target_slice`

上記のパラメータの定義については、[87 ページの「iSCSI ターゲットの作成と構成」](#)のセクションを参照してください。

---

注-iSCSI ターゲットでは、OS の初期インストールとアップグレードの両方がサポートされます。

---

次の例は、初期 iSCSI インストール用の JumpStart プロファイルのサンプルです。

例 4-1 初期 iSCSI インストール用の JumpStart プロファイル

```
install_type    initial_install
partitioning    explicit
filesys         rootdisk.s4 5000
filesys         rootdisk.s1 2048
iscsi_target_name    iqn.1986-03.com.sun:02:358ddbf8-601a-e73a-df56-89
iscsi_target_ip      10.12.162.24
iscsi_target_lun      0
iscsi_target_port     3260
cluster          SUNWCrnet
```

次の例は、アップグレードインストール用の JumpStart プロファイルのサンプルです。

例 4-2 iSCSI アップグレードインストール用の JumpStart プロファイル

```
install_type    upgrade
iscsi_target_name    iqn.1986-03.com.sun:02:358ddbf8-601a-e73a-df56-89
iscsi_target_ip      10.12.162.24
iscsi_target_lun      0
iscsi_target_port     3260
iscsi_target_slice    4
```

JumpStart プロファイルでは、`root` ディレクトリ、スワップ領域、`/usr` ディレクトリなどのディレクトリを作成すべき場所を示すために、次のキーワードが使用されます。

- `filesys`
- `pool`
- `boot_device`

ディスク番号は iSCSI インストール時に動的に生成されるため、iSCSI インストール時に JumpStart プロファイル内の上記のキーワードにディスク命名法 (`cxtxdxsx`) を明示的に指定しないでください。



注意 - iSCSI のキーと値の情報をプロファイル内に指定する場合、`boot_device` キーと値のペアおよび `root_device` キーと値のペアはプロファイルに含めないようにしてください。 `root_device` キーと値のペアは、iSCSI ターゲットに基づいて `pfinstall` コマンドで動的に割り当てられます。

---

## (例) ターゲットの準備およびターゲットとイニシエータの関連付け

このセクションの手順では、ターゲットを準備してターゲットをイニシエータに関連付ける方法について説明します。タスクは操作の順に示されています。

1. Oracle Solaris 10 インストール用のターゲットの準備
2. ターゲットとイニシエータの関連付け
3. ターゲットシステム上の CHAP 詳細の消去

### ▼ Oracle Solaris 10 インストール用のターゲットを準備する方法

- 1 スーパーユーザーになります。
- 2 次のパッケージがまだインストールされていない場合は、インストールします。

---

ヒント - パッケージがインストールされているかどうかを調べるには、`pkginfo package-name` コマンドを使用します。

---

- SUNWiscsitu
- SUNWiscsittr
- SUNWiscsidmu
- SUNWiscsidmr
- SUNWstmf
- SUNWstmfu

- 3 iSCSI ターゲットとして ZFS ボリューム **iscsi-pool** を作成します。  
たとえば、`iscsi-pool` という名前の `zpool` をスライス `c0t1d0s0` から作成するには、次のようにします。

```
# zpool create -f iscsi-pool c0t1d0s0
```

- 4 **iscsi-pool** **zpool** 上に、**Oracle Solaris 10 OS**をインストールするターゲットディレクトリを作成します。

例:

```
# zfs create -V 20G iscsi-pool/mytarget
```

- 5 ターゲットを共有して、インストールのためにグローバルにアクセスできるようにします。

例:

```
# zfs set shareiscsi=on iscsi-pool/mytarget
```

- 6 **iSCSI** ターゲット名を一覧表示して、ターゲットが正常に作成されたことを確認します。

```
# iscsitadm list mytarget
```

```
Target: iscsi-pool/mytarget
iSCSI Name: iqn.1986-03.com.sun:02:d0a02ee1-91ad-67d9-bb8c-a3d4c4f1e152
Connections: 0
```

「Connections」フィールドの値 **0** は、そのターゲットに接続を試みたイニシエータがないことを示しています。

- 7 ターゲットシステムが、**Oracle Solaris 10**をインストールするイニシエータと同じサブネット上にあることを確認します。

ターゲットとしては、フラットファイル、UFS スライス、COMSTAR オブジェクト、または ZFS ボリュームを使用できます。

次の手順    ターゲットシステムで CHAP 認証を設定する場合は、[95 ページの「ターゲットをイニシエータに関連付ける方法」](#)および『『Solaris のシステム管理 (デバイスとファイルシステム)』』の「iSCSI ターゲットの CHAP 認証を構成する方法」を参照してください。

CHAP 認証が必要でない場合、ターゲットはグローバルに可視になります。ターゲットをイニシエータに関連付けます。

## ▼ ターゲットをイニシエータに関連付ける方法

この手順では、ターゲットシステムで CHAP ユーザー名とパスワードを設定する方法と、イニシエータプロファイルを作成してターゲットに関連付ける手順について説明します。

始める前に    このタスクを開始する前に、ターゲットを準備する必要があります。詳細は、[89 ページの「イニシエータの iSCSI パラメータを構成する方法 \(対話式テキスト方式\)」](#)を参照してください。

- 1 (省略可能) 管理者の **CHAP** ユーザー名とシークレットを設定します。

詳細は、『[Oracle Solaris の管理: デバイスとファイルシステム](#)』の「[iSCSI ベースのストレージネットワークにおける認証の構成](#)」を参照してください。

- 2 イニシエータプロファイルを作成し、ターゲットに関連付けます。  
イニシエータに my-initiator-profile などの別名を指定することもできます。

例:

```
# iscsitadm create initiator
--iqn iqn.1986-03.com.sun:01:000000000500.initiator my-initiator-profile
```

イニシエータ ID (IQN) は、ホストシステムによって iSCSI パラメータの構成時に指定されます。例として、[89 ページの「イニシエータの iSCSI パラメータを構成する方法 \(対話式テキスト方式\)」](#) タスクに示されている IQN 番号を使用します。

- 3 イニシエータに指定されている **CHAP** ユーザー名を設定します。

例:

```
# iscsitadm modify initiator --chap-name mytestname my-initiator-profile
```

- 4 イニシエータに設定されているものと同じ **CHAP** シークレット資格情報を指定します。

例:

```
# iscsitadm modify initiator --chap-secret mytestname my-initiator-profile
Enter secret: *****
Re-enter secret: *****
```

- 5 このプロファイルをアクセス制御リストに追加します。

例:

```
# iscsitadm modify target --acl my-initiator-profile iscsi-pool/mytarget
```

このコマンドは、イニシエータプロファイル my-initiator-profile をターゲット iscsi-pool/mytarget に確実に関連付けるとともに、ターゲットへのアクセスを制限します。

参照 CHAP 認証を使用した場合に、タスクの完了後にターゲット上の設定を消去する場合は、[97 ページの「iSCSI ターゲット上の CHAP 設定を消去する方法」](#)を参照してください。



## ▼ iSCSI ターゲット上の CHAP 設定を消去する方法

この手順では、iSCSI ターゲット上の CHAP 設定を削除し、関連プロファイルの関連付けを解除する方法を示します。このプロセスにより、ターゲットは現在構成されているホストから解放され、ほかのホストイニシエータで使えるようになります。

- 1 ターゲットのアクセス制御リストからイニシエータプロファイルを削除します。

例:

```
# iscsitadm delete target --acl my-initiator-profile iscsi-pool/mytarget
```

- 2 関連プロファイル `iscsi-pool/mytarget` の CHAP シークレットを消去します。

例:

```
# iscsitadm modify initiator --chap-secret mytestname my-initiator-profile
Enter secret:
Re-enter secret :
```

- 3 関連プロファイル `my-initiator-profile` の CHAP ユーザー名を消去します。

```
# iscsitadm modify initiator --chap-name "" my-initiator-profile
```

- 4 管理者の CHAP シークレットを消去します。

```
# iscsitadm modify admin --chap-secret
Enter secret:
Re-enter secret :
```

- 5 管理者の CHAP ユーザー名を消去します。

```
# iscsitadm modify admin --chap-name ""
```

- 6 イニシエータプロファイルを削除します。

```
# iscsitadm delete initiator --all my-initiator-profile
```



# 索引

---

## B

### BIOS

ブートの優先順位の設定, 45, 71  
要件, 70

## G

GRUB 付き x86 ベースのシステムのインストール, 44-56  
ZFS の場合, 70-83

## I

IP アドレス, デフォルトルートの指定, 24

## K

Kerberos, 構成情報, 20

## O

Oracle Solaris インストールプログラム, 31-56  
グラフィカルユーザーインターフェース (GUI)  
開始コマンド (SPARC ベースのシステム), 35  
開始コマンド (x86 ベースのシステム), 47  
説明, 11  
自動登録の GUI 画面  
SPARC ベースのシステム, 40

Oracle Solaris インストールプログラム (続き)  
自動登録のカーソルによるデータ入力画面  
SPARC ベースのシステム, 80  
説明, 11-12  
テキストインストーラ  
コンソールセッションでの開始コマンド  
(SPARC ベースのシステム), 35  
説明, 11  
デスクトップセッションでの開始コマンド  
(SPARC ベースのシステム), 35  
メモリー要件, 11  
SPARC ベースのシステムの指示, 34-43

## S

Solaris インストールプログラム  
GRUB の指示, 44-56  
x86 ベースのシステムの指示, 44-56  
SPARC ベースのシステム, インストールの指示, 34-43  
stty コマンド, 27

## W

Oracle Solaris インストールプログラムを表示するためのメモリー要件, 11

**X**

x86 based ベースのシステム

ブート

ZFS の場合, 71

x86 ベースのシステム

BIOS 要件, 70

GRUB 付きでインストール, 44-56

ZFS の場合, 70-83

インストールの指示, 44-56

ZFS の場合, 69-83

インストールの準備

ZFS の場合, 70

ブート, 45

**あ**

アップグレード

SPARC ベースのシステム, 34-43

SPARC ベースのシステムの指示, 34-43

x86 ベースのシステム, 44-56

ZFS の場合, 69-83

x86 ベースのシステムの指示, 44-56

ZFS の場合, 70-83

ポストインストールタスク

SPARC ベースのシステム, 43

x86 ベースのシステム, 55

ログファイル, 42, 68, 81

**い**

インストール

SPARC ベースのシステム, 34-43

ZFS の場合, 59

x86 ベースのシステム, 44-56

ZFS の場合, 69-83

必要な情報, 16-28

インストール, GRUB 付き x86 ベースのシステム, 44-56

ZFS の場合, 70-83

インストール時のデバイス設定の変更, 36, 59

ZFS の場合, 72

インストール情報のチェックリスト, 16-28

インストールに必要な情報, 16-28

インストールに必要なメディア, x86 ベースのシステム, 70

インストールの開始

SPARC ベースのシステム, 35

x86 ベースのシステム, 47

インストールの開始コマンド, SPARC ベースのシステム, 35

インストールの準備

x86 ベースのシステム

ZFS の場合, 70

インストールする前に必要な情報, 16-28

インストールの前提条件

x86 ベースのシステム

ZFS の場合, 70

インストール前の情報収集, 16-28

**え**

エンドユーザーシステムサポート

サイズ, 15

説明, 14-16

**か**

開発者システムサポート

サイズ, 15

説明, 14-16

カスタムインストール、説明, 38

**き**

キーボード、SPARC ベースのシステムの構成, 36, 59

キーボード、x86 ベースのシステムの構成, ZFS の場合, 72

**く**

グラフィカルユーザーインタフェース (GUI)

開始コマンド (SPARC ベースのシステム), 35

開始コマンド (x86 ベースのシステム), 47

## グラフィカルユーザーインタフェース (GUI) (続き)

- 説明, 11
- メモリー要件, 11

## け

- 言語、インストール時の選択, 49, 59
  - ZFS の場合, 73
- 限定ネットワークシステムサポート
  - サイズ, 15
  - 説明, 14-16

## こ

- コアシステムサポート
  - サイズ, 15
  - 説明, 14-16

## し

- システム BIOS でのブート優先順位の設定, 45, 71
- システムのブート
  - SPARC ベースのシステム, 35
    - ZFS の場合, 59
  - x86 ベースのシステム, 45
    - ZFS の場合, 71
- システム要件, 9-16
- 自動登録のカーソルによるデータ入力画面, 80
- 自動登録の画面, 40
- 出力ファイル
  - アップグレードログ, 42, 68, 81
- シリアルコンソール, 45
- シリアルコンソールの設定, 45

## す

- スライス、説明, 9

## せ

- 全体ディストリビューション
  - サイズ, 15
  - 説明, 14-16
- 全体ディストリビューションと OEM サポート
  - サイズ, 15
  - 説明, 14-16

## そ

- ソフトウェアグループ, 15

## て

- ディスク容量、ソフトウェアグループの要件, 15
- テキストインストーラ
  - ZFS ルートプールのインストール, 57-83
  - コンソールセッションでの開始コマンド (SPARC ベースのシステム), 35
  - 説明, 11
  - デスクトップセッションでの開始コマンド (SPARC ベースのシステム), 35
  - メモリー要件, 11

## 手順

- SPARC ベースのシステムのインストール, 34-43
- x86 ベースのシステムのインストール, 44-56
  - ZFS の場合, 69-83
- デバイス設定、変更, 36, 59
  - ZFS の場合, 72

## は

- パーティション、説明, 9

## ふ

- ブートの優先順位
  - システム BIOS の設定, 45, 71

## よ

要件, 9-16

BIOS, 70

Oracle Solaris インストールプログラムの表

示, 11

メディア

x86 ベースのシステム, 70

メモリー, 10

## ろ

ログファイル

アップグレードインストール, 42, 68, 81